

子育て支援策等に関する調査 2014 報告書(未就学の父母アンケート調査)概要

調査目的:子育てに対する意識等に関する実態を把握するためアンケートにより調査を実施した。

調査対象:未就学児を持つ4,000名の父母
(父親2,000名、母親2,000名)

調査方法:ネット調査会社の登録モニターを利用したウェブアンケート調査 *2002年調査は登録モニターによる郵送調査

抽出方法:北海道・東北、東京都、北関東・南関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄8つの地域ブロック別に、人口比率にあわせて登録モニターを無作為に抽出

調査実施時期:平成26年6月

<分析項目>

1. 子育てについての意識
2. 子どもの育ちと子育て支援環境
3. 子育てにおける父母の役割分担
4. 仕事と子育ての両立の状況
5. 基本属性

<まとめ>

1. 子育てについての意識

～子どもが生まれる前の子どもを持つことに対する不安感は、前回調査(2002年)よりも、2割程度増加。父親の仕事と子育ての優先度は、仕事から子育てにシフトする傾向、希望する子ども数自体は減っていないが現実には持っていない状況もある～
(p.8-17)

●子育ての楽しさ

父親、母親ともに、7割前後が子育てを楽しんでいると感じており、前回調査(2002年)と同程度である。夫婦の就業形態別にみると、「正社員×専業主婦(夫)」世帯の母親がもっとも子育ての楽しさを感じている割合が低い。

●子どもが生まれる前の子育て観

父親、母親ともに、「子どもが好きで、欲しいと思っていた」等前向きな子育て観を持っていた人が7～8割を占めている。ただし「子どもを持つのが不安だった」という人が、今回調査では父親46.6%、母親50.1%と、前回調査の父親29.4%、母親35.2%よりもかなり多く、不安感が強くなっている状況が見られる。また、子どもを持つことに不安を感じていた人は、感じていなかった人よりも、出産後、子育てを楽しんでいる割合が低い。

●子育ての優先度

父親の子育ての優先度についての希望は、前回調査よりも「仕事と家事や育児等を同等に重視」が減少し、「どちらかと言えば家事・育児等が優先」が増加している。また、父親の子育ての現実には、「仕事等の自分の活動に専念」、「どちらかと言えば仕事等が優先」が減少し、「どちらかと言えば家事・育児等が優先」、「家事や育児が優先」が増加している。

●希望する子ども数

現在の子ども数と今後持ちたい子ども数を合わせてみると、現在の子ども数「1人」と「2人」で、前回調査と比べて「今後出産希望あり」の割合が高い。希望する子ども数をまだ持っていない人の割合が高いが、希望する子ども数そのものは、あまり減少はしていないとみられる。

2. 子どもの育ちと子育て支援環境

～子どもの育つ環境としてIT機器等の利用が増え、自然や同年代の子と触れ合う機会の減少が懸念されている。また親についても、地域の中での子どもを通じた付き合いや近所の子育て相談相手等、人的なつながりが減少している～

(p.18-31)

●家の近くの子どもの遊び場

家の近くの子どもの遊び場について最も多いのは、今回の調査でも前回の調査と同様「雨の日に遊べる場所がない」、次いで多いのが「遊具などの種類が充実していない」であった。今回調査では、3番目に「近くに遊び場がない」が上がってきている。

●子どもの育つ環境についての不安

TV・DVDやパソコン・スマートフォン等の利用が多く、屋外で身体を動かしたり、自然と触れ合ったり、同年齢の子どもたちと遊ぶ機会が不足していることなどが上位にあげられる。

●地域の中での子どもを通じた付き合い、子育ての相談相手

父親、母親ともに「子どもを通して関わっている人はいない」と回答する割合が増え、子どもを通じた付き合いが全体的に減少している状況が見られる。また、子育ての相談相手についても、近所に家族以外の相談相手を持つ人の割合が減少している状況が見られる。

●出産前後の支援と子育て支援サービス

出産前後の支援、まだ浸透していないためか利用状況も利用意向も低い。保育等の子育て支援でも「わからない」、「ない」に次いで多いのは「一時預かり」、「放課後児童クラブ」となっている。年齢別に利用している・したことのある子育て支援をみると、子の年齢が低いほど、利用したサービスが「ない」あるいは「わからない」の割合が高い。

●認定こども園が増えた際の認定こども園の利用意向

父親、母親ともに最も多いのは「わからない」がもっとも多く、まだ制度や保育・教育内容が浸透していないため、判断が難しいものとみられる。

3. 子育てにおける父母の役割分担

～主に、母親が家事(食事の支度等)や子育て(食事をさせる等)を担い、父親は、一部の家事(ゴミ出し等)や子育て(遊ぶ等)を担っている。父親が担っている子育てのうち、「保育園、幼稚園等の送り」、「保育園、幼稚園等のお迎え」、「子育て生活のマネジメント」の割合は低い～

(p.32-39)

●家事、子育ての役割分担

家事・子育ての役割分担について、父親でもっとも多いのは「配偶者・パートナーが主で自分が一部担っている」で、家事では57.8%、育児では62.0%である。母親で最も多いのは「自分が主で、配偶者・パートナーが一部担っている」であり、家事では47.9%、子育てでは68.1%であった。

●担っている家事、子育て

父親が担っている役割は、家事では「ゴミ出し」等の割合が高く、子育てでは「遊ぶ」等の割合が高く、「保育園、幼稚園等の送り」、「保育園、幼稚園等のお迎え」、「子育て生活のマネジメント」の割合は低い。正社員の父親で保育園等の送り迎えを配偶者にすべて任せている割合は、父親の労働時間が50時間/週を超えると高くなる。父親の家事・子育てへの関わりについて、母親が評価している点としては、「子どもとよく遊ぶ」、「子どもの日常の世話をする」が多く、不満な点としては、「子どもの模範となる生活態度をとる」、「日常の家事をする」が多くあげられている。

●子育てへの関わり度合い

自身の子育てへの関わり度合いについて、父親の「ある程度は十分である」と「十分である」の合計は63.2%、母親の「ある程度は十分である」と「十分である」の合計は85.9%であった。前回調査では、自身の関わりについて「十分である」と「ある程度は十分である」を合計した割合は、父親で55.9%、母親で91.9%であった。子育てへの関わりが十分でない原因については、父親、母親ともに、「仕事が忙しすぎる」と回答した割合が最も高く、前回調査と同様であった。父親の平日の家事・育児時間は、週当たり労働時間が長いほど低い傾向がみられる。

4. 仕事と子育ての両立の状況

～結婚後や子どもをもった後は、父母ともに「フルタイムだが時間の融通が利く仕事」、「フルタイムだが残業のない仕事」、母親では、「短時間勤務」や「在宅勤務」で働きたいという希望が多い。実態としても、父親では「恒常的に残業あり」で働く正社員の割合は減っている～ (p.40 -49)

●就業形態

就業形態でもっとも多いのは、父親では「正社員：恒常的に残業あり」、母親では「無職」であった。前回調査でも、もっとも多い就業形態は父母ともに同じだが、父親の「恒常的に残業あり」の割合は減っている。

●通常働いている日に帰宅する時間、週当たりの平均労働時間

父親と母親が通常働いている日に帰宅する時間のうち最も多い組合せは、「父親の19時以降22時未満、母親の16時以降19時未満」であった。父親と母親の週当たりの平均労働時間のうち最も多い組み合わせは、「父親の40～49時間と母親の40～49時間」であった。

●育児休業取得の状況

末子で育児休業を取得した割合は、父親の場合、正社員で8.8%、契約・パート等で8.8%である。母親では、正社員で81.1%、契約・パート等で22.9%である。父母ともに、契約・パート等では「対象でない・働いていない」が5割強を占めるが、中には、自身が対象であるもののそのことを知らない人が含まれる可能性がある。育休を取得した女性の中には復帰に不安を感じた人も3割を超える。

●理想の働き方

父親、母親ともに、結婚後や子どもをもった後は、未婚の時のような「急な残業もあるフルタイムの仕事」を希望する割合は減少し、父母ともに「フルタイムだが時間の融通が利く仕事」、「フルタイムだが残業のない仕事」、母親では、「短時間勤務」や「在宅勤務」で働きたいという希望が多くなっている。

●ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)への満足度

自身のワーク・ライフ・バランスの満足度について、満足している(「満足している」、「まあ満足している」)は、父親で58.1%、母親で55.1%である。就業形態別にみると満足していない理由について、父親で最も多いのは「子育てに十分取り組めていない」、母親で最も多いのは「自分の時間が十分に取れていない」、次いで、「子育てに十分取り組めていない」であった。

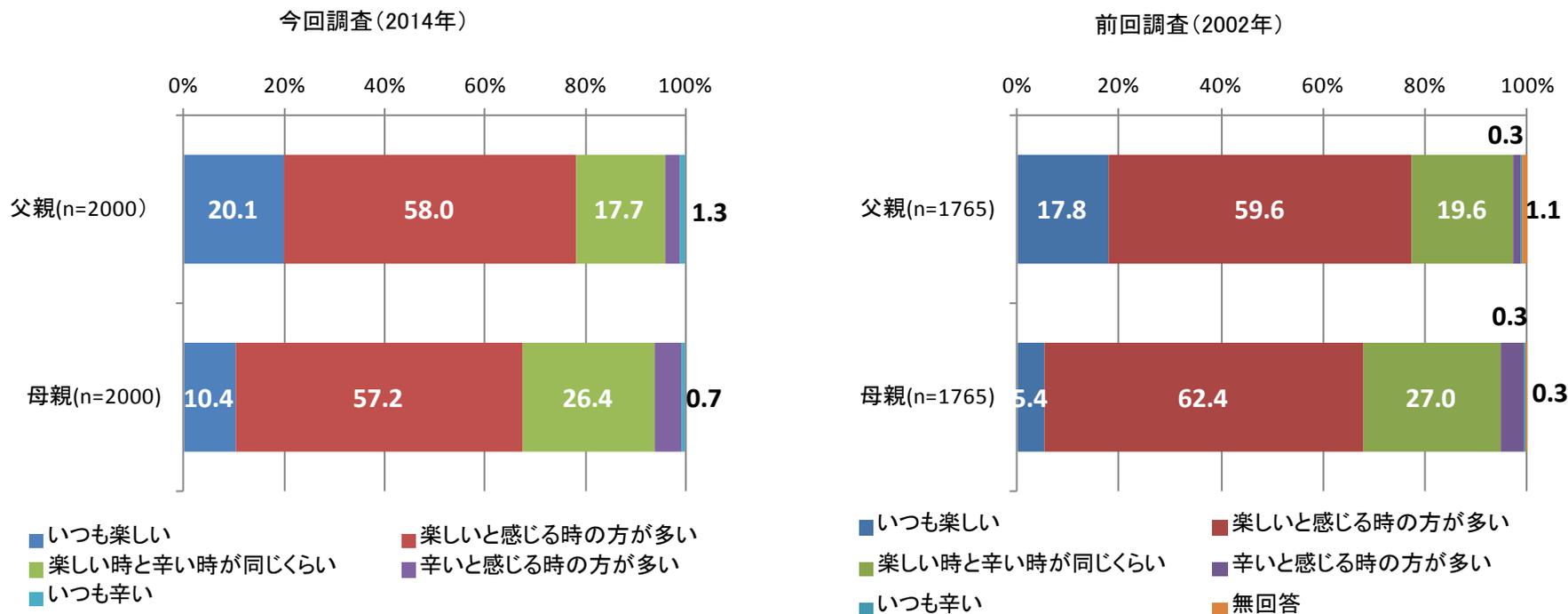
<参照データ>

1. 子育てについての意識

(1) 子育ての楽しさ

子育てを楽しんでいるかについて、「楽しい」(「いつも楽しい」、「楽しいと感じる時の方が多い」の合計)と感じる割合は、父親78.1%、母親67.6%であり、7割前後が子育てを楽しんでいる。前回調査でも、「楽しい」と感じる割合は、父親77.4%、母親67.8%であり、同じく7割前後が子育てを楽しんでいると感じていた。母親の方が楽しいと感じている割合が低い傾向も変わらない。

図表1 子育ての楽しさ:単数回答

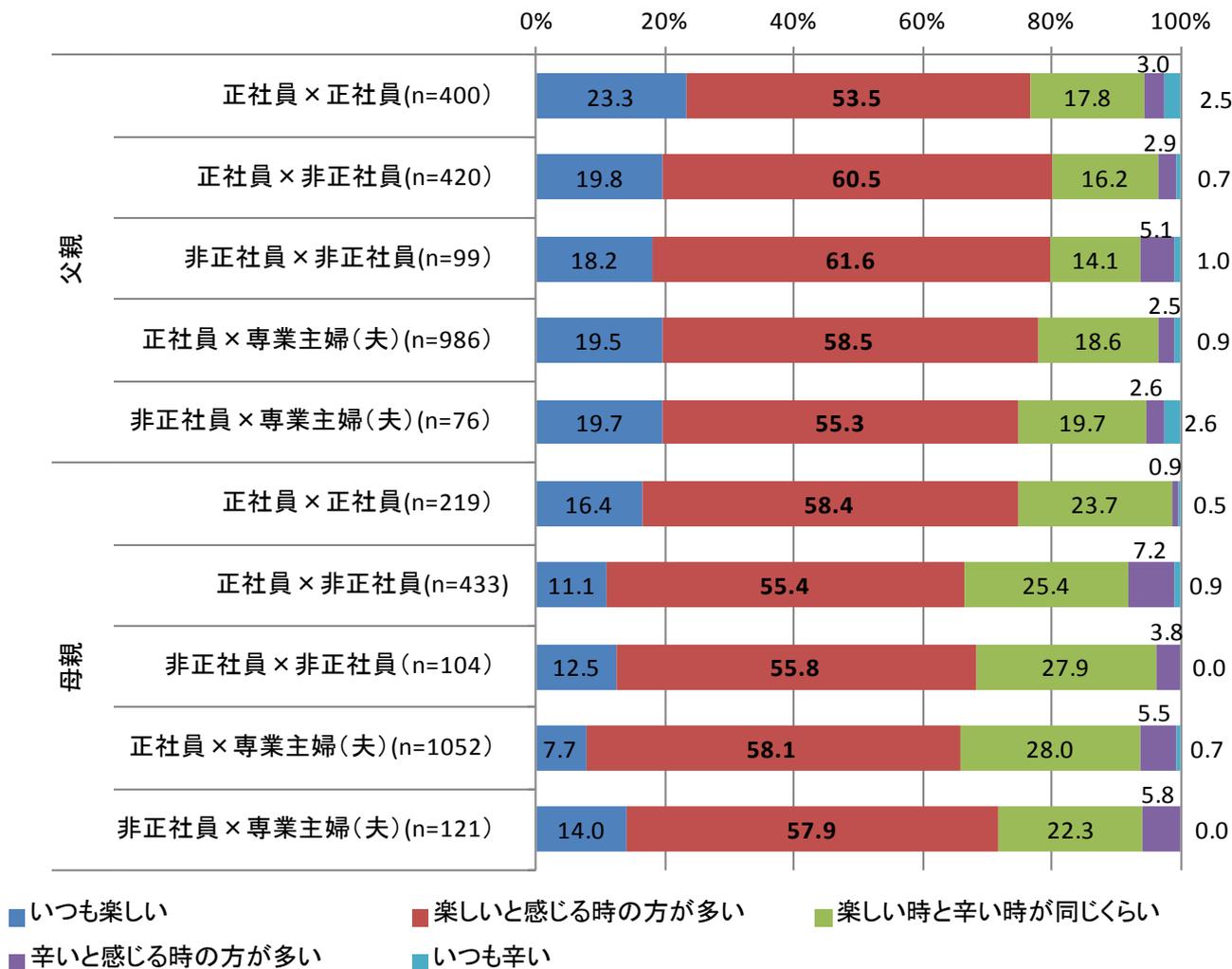


(2)夫婦の就業形態と子育ての楽しさ

夫婦の就業形態の組み合わせ別に子育てを楽しんでいるかについてみると、父親よりも母親で、就業形態による差が大きい。「楽しい」「いつも楽しい」、「楽しいと感じる時の方が多
い」と回答する割合がもっとも低いのは、「正社員×専業主婦(夫)」家庭の母親である。

今回調査(2014年)

図表2 夫婦の就業形態別子育ての楽しさ:単数回答

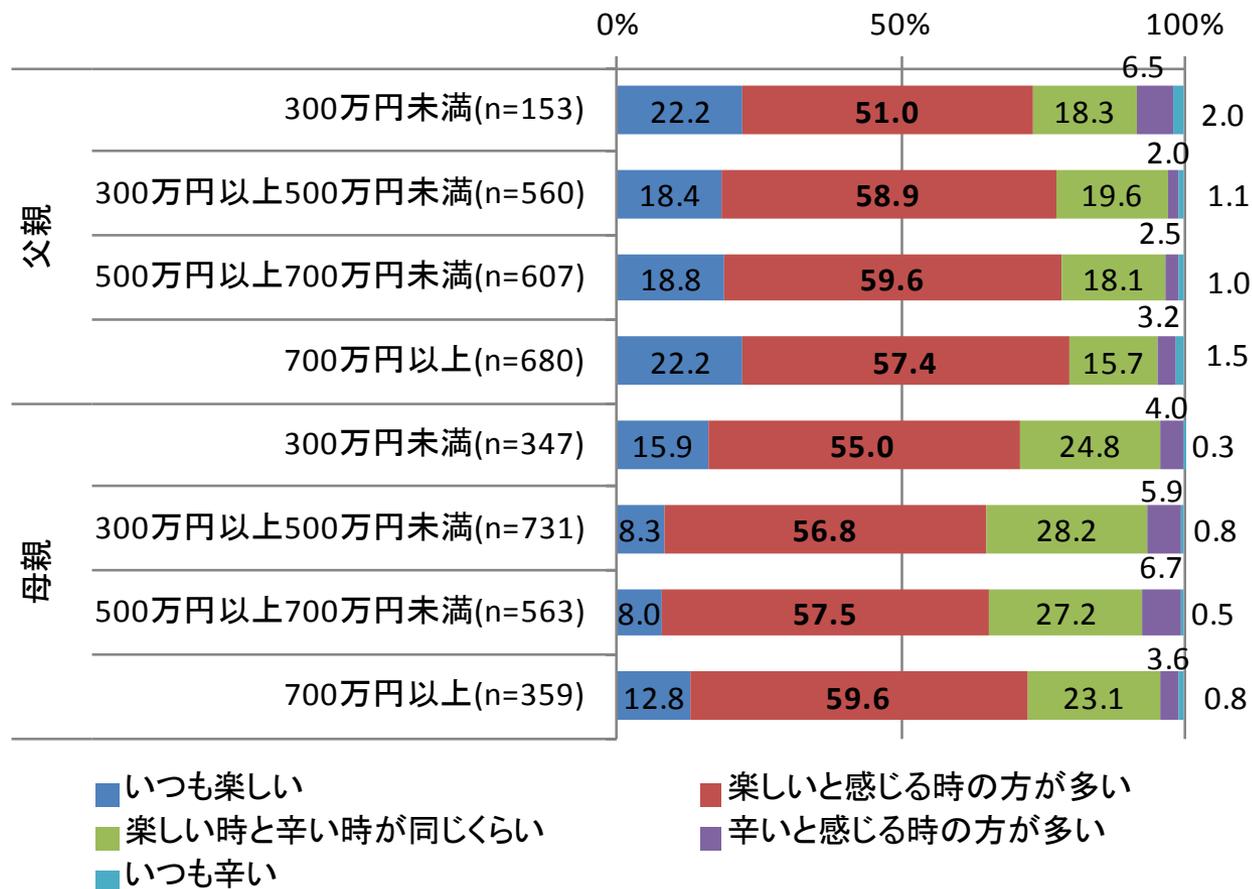


<参考> 世帯年収と子育ての楽しさ

夫婦の就業形態の違いによる子育ての楽しさは、世帯年収の違いを背景としたものではないかとも推測されることから、世帯年収別子育ての楽しさについて確認した。下図のとおり、父親では世帯年収の違いによる子育ての楽しさの違いはほとんどなく、母親では中間層で子育てが「いつも楽しい」と回答する割合がやや低い傾向はみられない。

今回調査(2014年)

図表3 世帯年収別子育ての楽しさ:単数回答

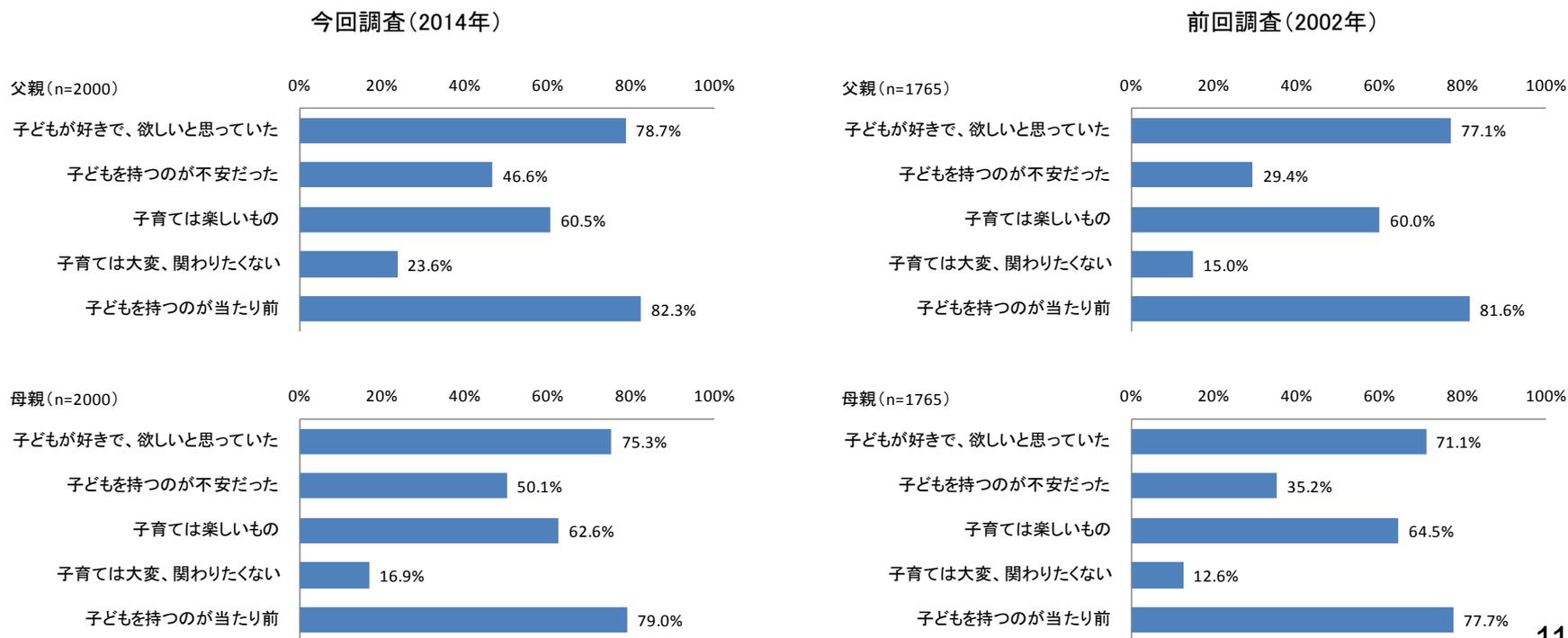


(3)子どもが生まれる前の子育て観

子どもが生まれる前の子育て観について、全般的に父親と母親は近い傾向を示しており、「結婚したら子どもを持つのが当たり前だと思っていた」、「子どもが好きで、欲しいと思っていた」と回答した割合が、7～8割を占めていた。

ただし、「子どもを持つのが不安だった」と回答した割合は、今回調査では、父親46.6%、母親50.1%であり、前回調査の父親29.4%、母親35.2%と比較すると、生まれる前の子どもを持つことに対する不安感が高くなっている状況が見られる。

図表4 子どもが生まれる前の子育て観：単数回答

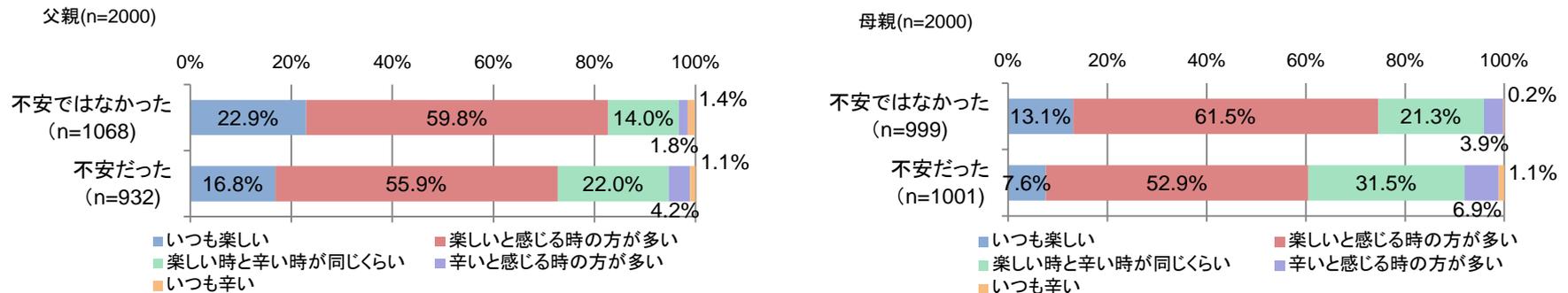


(4) 出産前の子どもを持つことへの不安と出産後の子育ての楽しさ

子どもを持つ前の子育て観として、子どもを持つことに不安を感じていた者が、現在、子育てを「楽しい」「いつも楽しい」「楽しいと感じる時の方が多い」と回答した割合は、父親72.7%、母親60.5%である一方、「不安でなかった」と感じていた者が「楽しい」と回答した割合は、父親82.7%、母親74.6%であった。出産前に不安を感じていた人の方が、出産後も子育てを楽しんでいる割合が高い。

図表5 子育てについて不安の有無別の子育ての楽しさ：単数回答

今回調査(2014年)

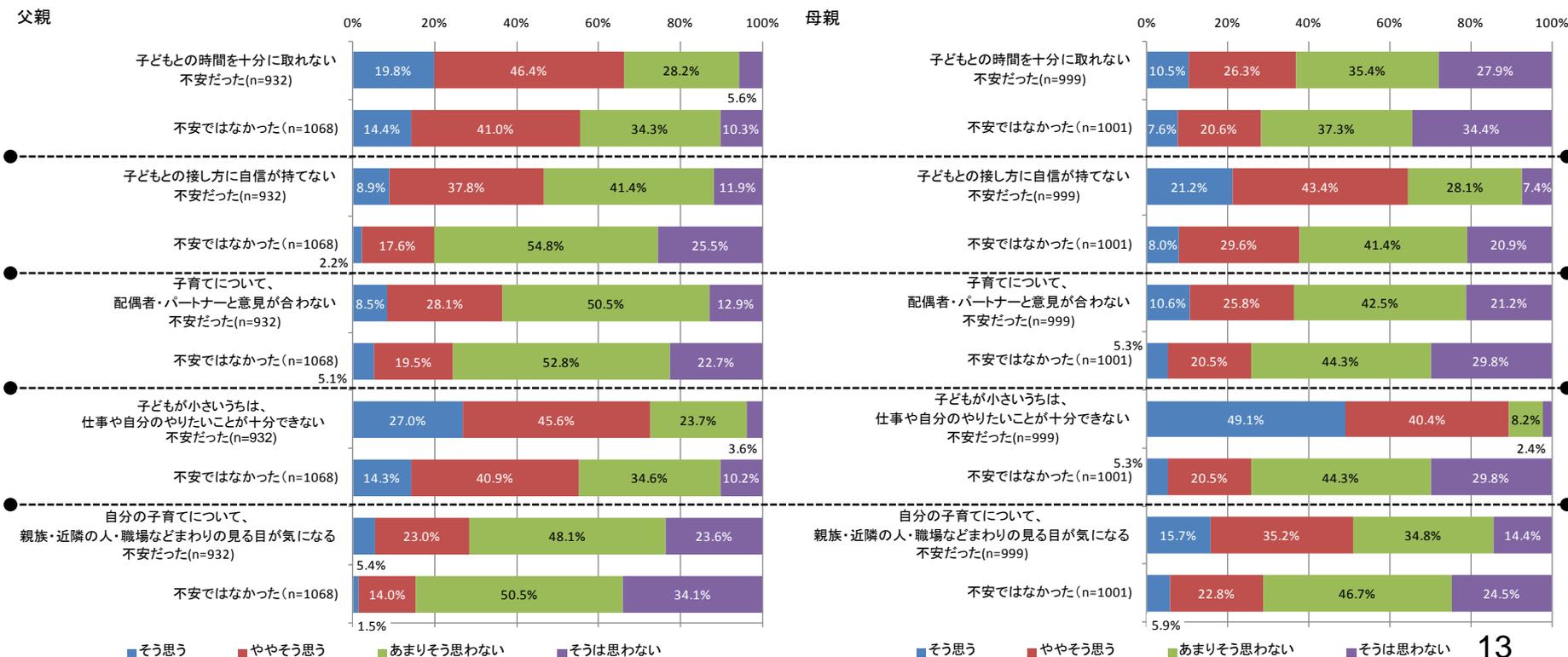


(5) 出産前の子どもを持つことへの不安と出産後の子育ての不安・悩み

出産前に子どもを持つことに不安を感じていた人の不安や悩みの内容について、不安を感じていた父親は、「子どもとの接し方に自信がもてない」の「そう思う」「ややそう思う」の合計が46.7%である一方、不安を感じていなかった人は19.8%であった。また、不安を感じていた母親は、「子どもが小さいうちは仕事や自分のやりたいことが十分できない」の「そう思う」「ややそう思う」の合計が、不安を感じていた人は89.1%である一方、不安を感じていなかった人は25.8%であった。

図表6 子どもをもつことへの不安の有無別子育ての不安・悩み：単数回答

今回調査(2014年)



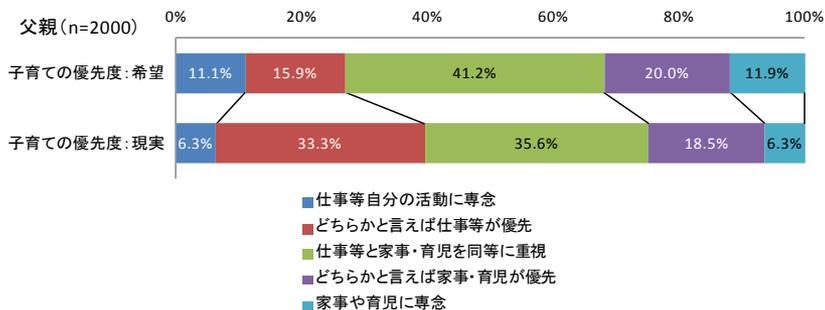
(6)子育ての優先度

父親の子育ての優先度(希望)は、「仕事と家事や育児等を同等に重視」が前回調査から減少し、「どちらかと言えば家事・育児等が優先」が増加している。また、父親の子育ての優先度(現実)は、「仕事等の自分の活動に専念」、「どちらかと言えば仕事等が優先」が減少し、「どちらかと言えば家事・育児等が優先」、「家事や育児が優先」が増加している。

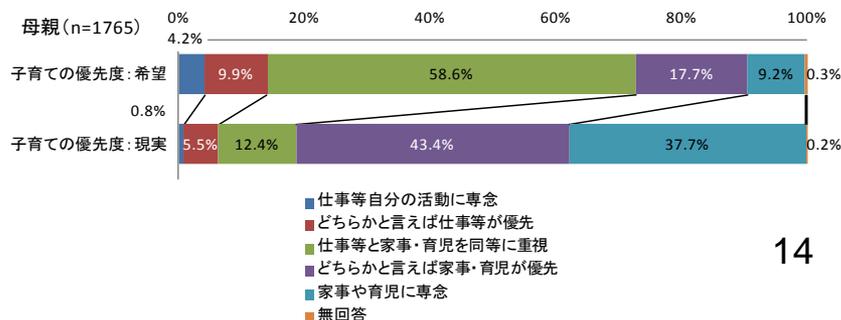
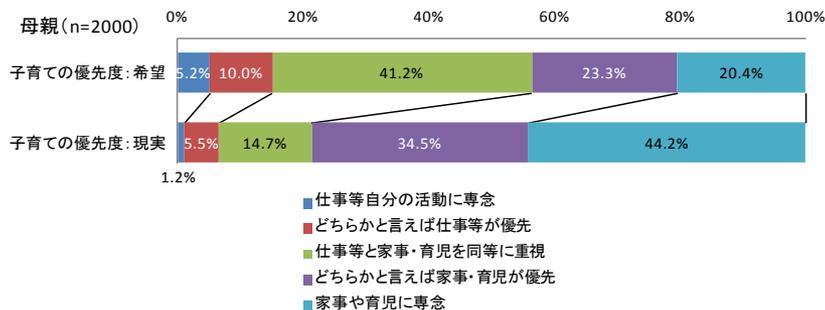
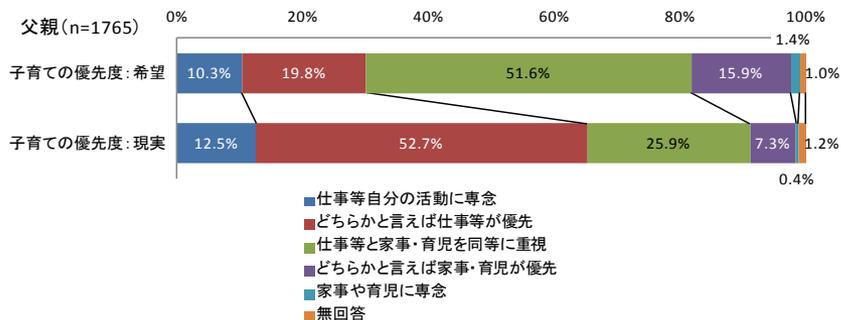
一方、母親の子育ての優先度(希望)は、「仕事と家事が同等」が減少し、「どちらかと言えば、仕事や自分の活動よりも家事や育児が優先」、「家事や育児に専念」が増加している。また、母親の子育ての優先度(現実)は、「家事や育児に専念」が増加し、「どちらかといえば家事優先」が減少している。

図表7 子育ての優先度(希望、現実):単数回答

今回調査(2014年)



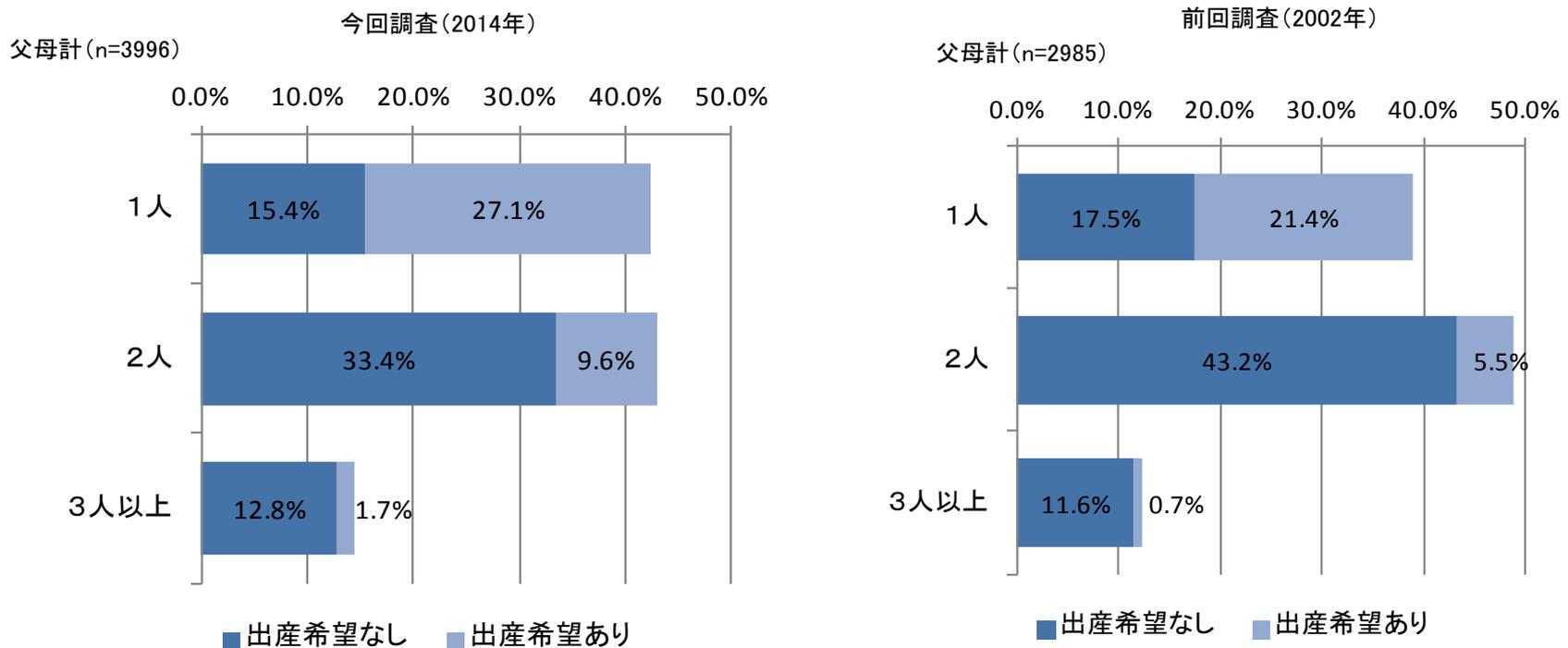
前回調査(2002年)



(7)今後の出産希望

今回の調査対象の父母全体に対して、現在の子ども数と今後の出産希望の分布状況をみた。今回の調査では、「子どもが1人で、今後の出産希望なし」が15.4%、「子どもが1人で、今後の出産希望あり」が27.1%となっている。前回調査と比較すると、現在の子ども数「3人以上」はわずかに増加しており、現在「2人」だがさらに子が欲しい人の割合も増加している。また、現在の子ども数「2人」で、「今後の出産希望なし」の割合がやや低く、現在の子ども数「1人」と「2人」で、前回調査と比べて「今後出産希望あり」の割合が高い。希望する子ども数をまだ持っていない人の割合が高いが、希望する子ども数そのものは、あまり減少はしていないとみられる。

図表8 現在の子ども数別 今後の出産希望



注:「現在の子ども数」と「今後の出産希望の有無」に回答のあった「父母計」を母数(100%)として算出している。

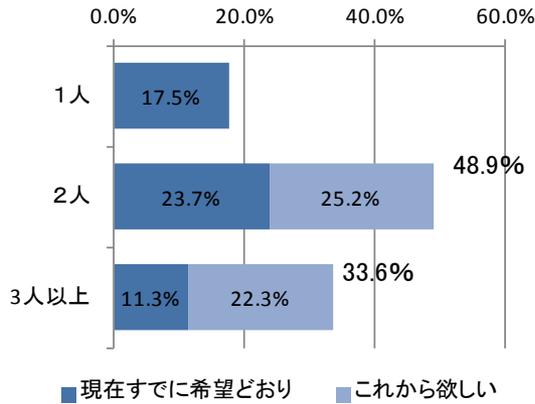
(8) 就業形態と希望する子ども数

就業形態別に現在の子ども数と今後の出産希望を合わせた希望する子ども数を見ると、「2人」の割合は、専業主婦＞自営・内職＞契約・パート＞正社員の順で多く、3人以上はまったく逆に正社員＞契約・パート＞自営・内職＞専業主婦の順に多い。

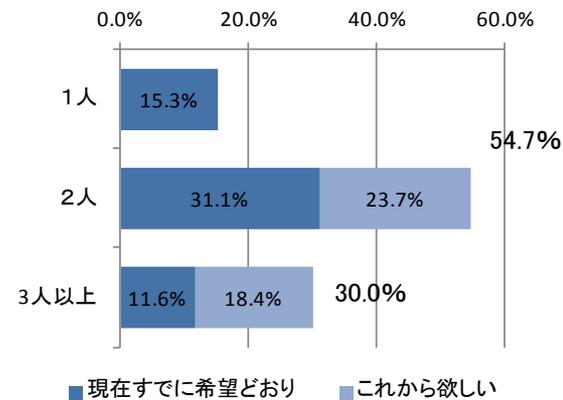
図表9 女性の就業形態別 希望する子ども数別現在の子ども数＋今後の出産希望

今回調査(2014年)

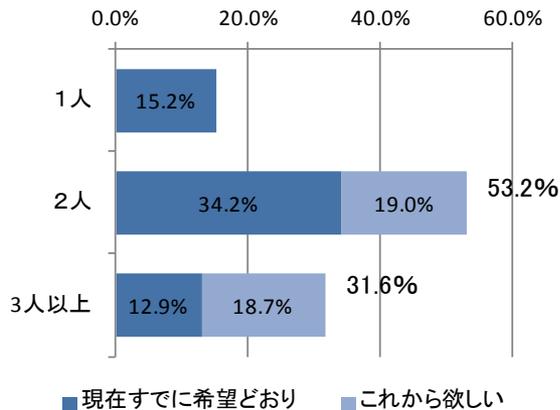
正社員 (n=274)



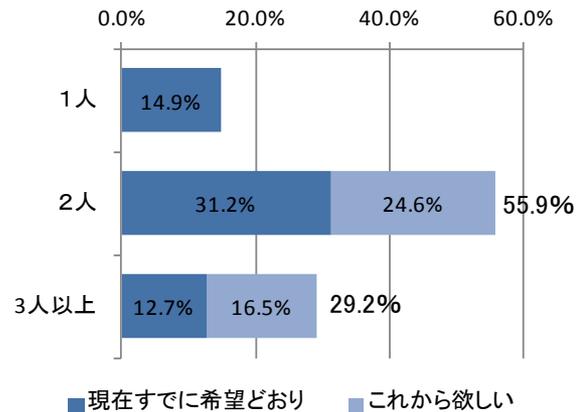
自営・内職・その他 (n=190)



契約・パート社員 (n=348)



専業主婦 (n=1181)

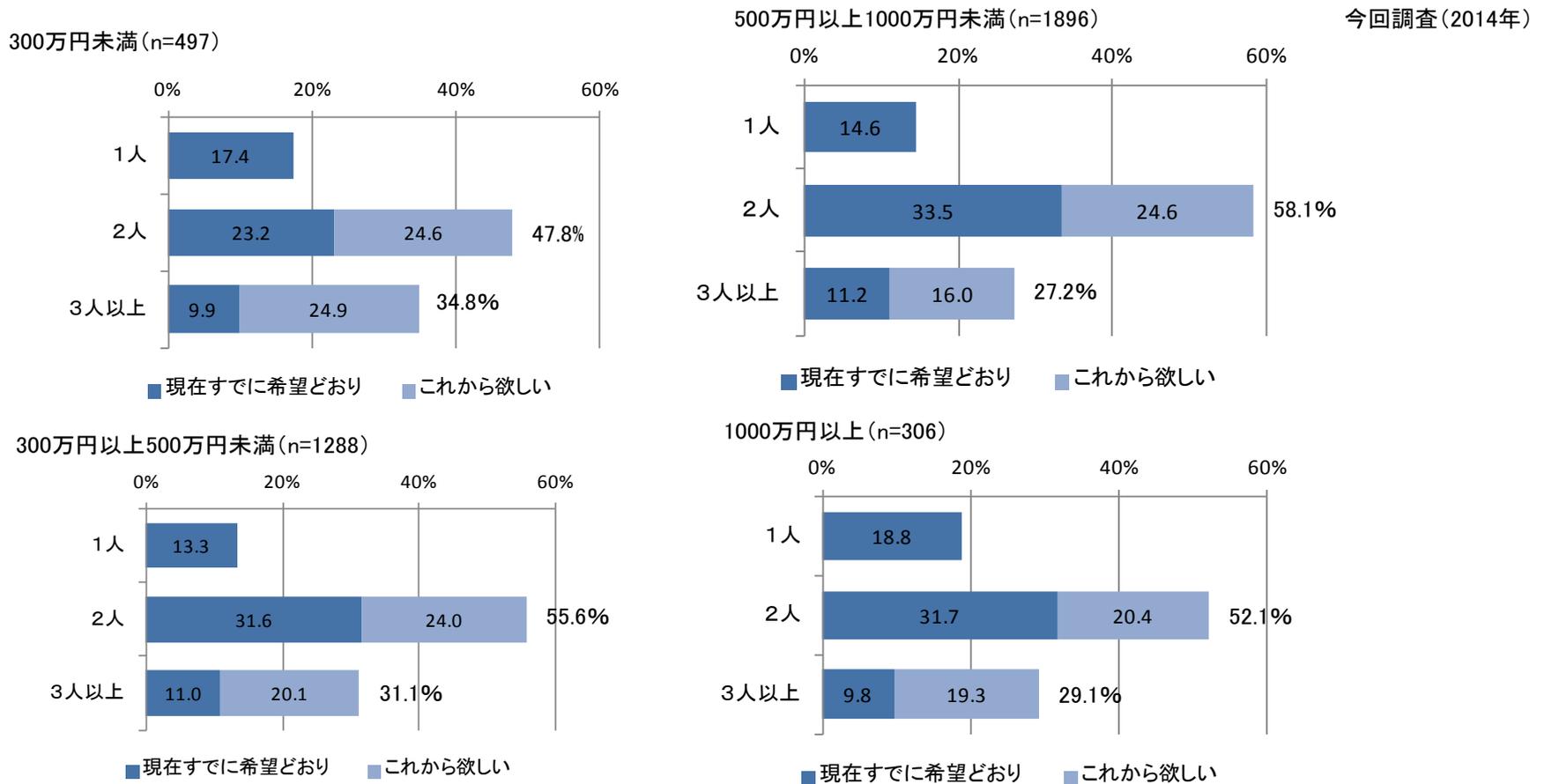


注: 各就業形態ごとに「現在の子ども数」と「今後の出産希望の有無」と「出産希望子ども数」に回答のあった女性の人数を母数(100%)として算出している。

<参考> 世帯年収と希望する子ども数

就業形態による違いの背景に世帯年収があるとみられる可能性があることから、世帯年収別に希望する子ども数の分布状況を確認した。年収300万円未満では、希望する子ども数が3人以上の割合が高く、2人がやや低い。現実には、希望する子ども数2人についてもまだ持っていない割合が高い。

図表10 世帯年収別 希望する子ども数別現在の子ども数＋今後の出産希望



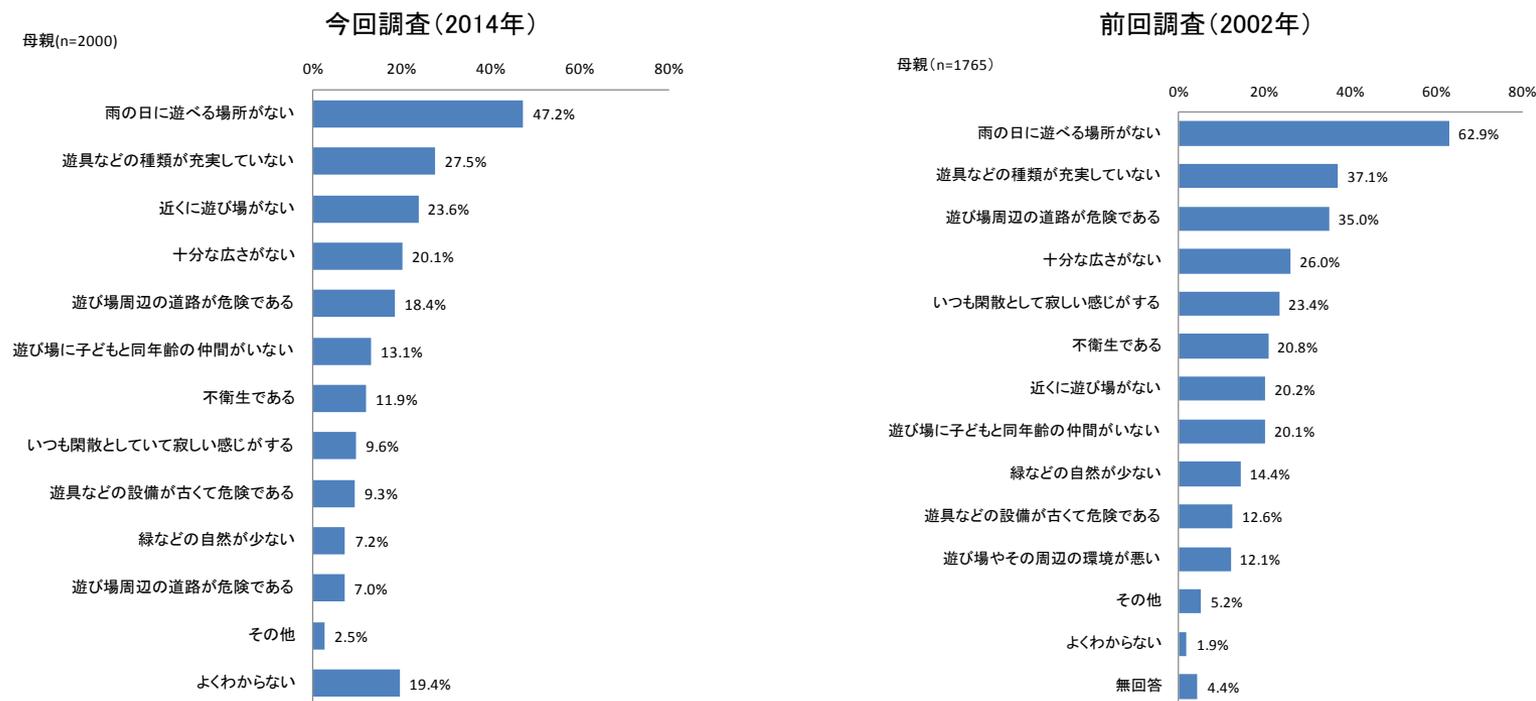
注:各世帯年収区分ごとに「現在の子ども数」と「今後の出産希望の有無」と「出産希望子ども数」に回答のあった男女の人数を母数(100%)として算出している。

2. 子どもの育ちと子育て支援環境

(1) 家の近くの子どもの遊び場

家の近くの子どもの遊び場の課題について最も多いのは、「雨の日に遊べる場所がない」で47.2%、次いで「遊具などの種類が充実していない」で27.5%である。前回調査でも、近隣の子どもの遊び場で困ることについて、「雨の日に遊べる場所がない」が最も多く、次いで「遊具などの種類が充実していない」が多いことは同じだが、今回は、3番目に前回調査と異なり「近くに遊び場がない」が多くなっている。また、前回調査に比べ「よくわからない」という回答が多くなっており、2割弱となっている。

図表11 家の近くの子どもの遊び場(母親):複数回答

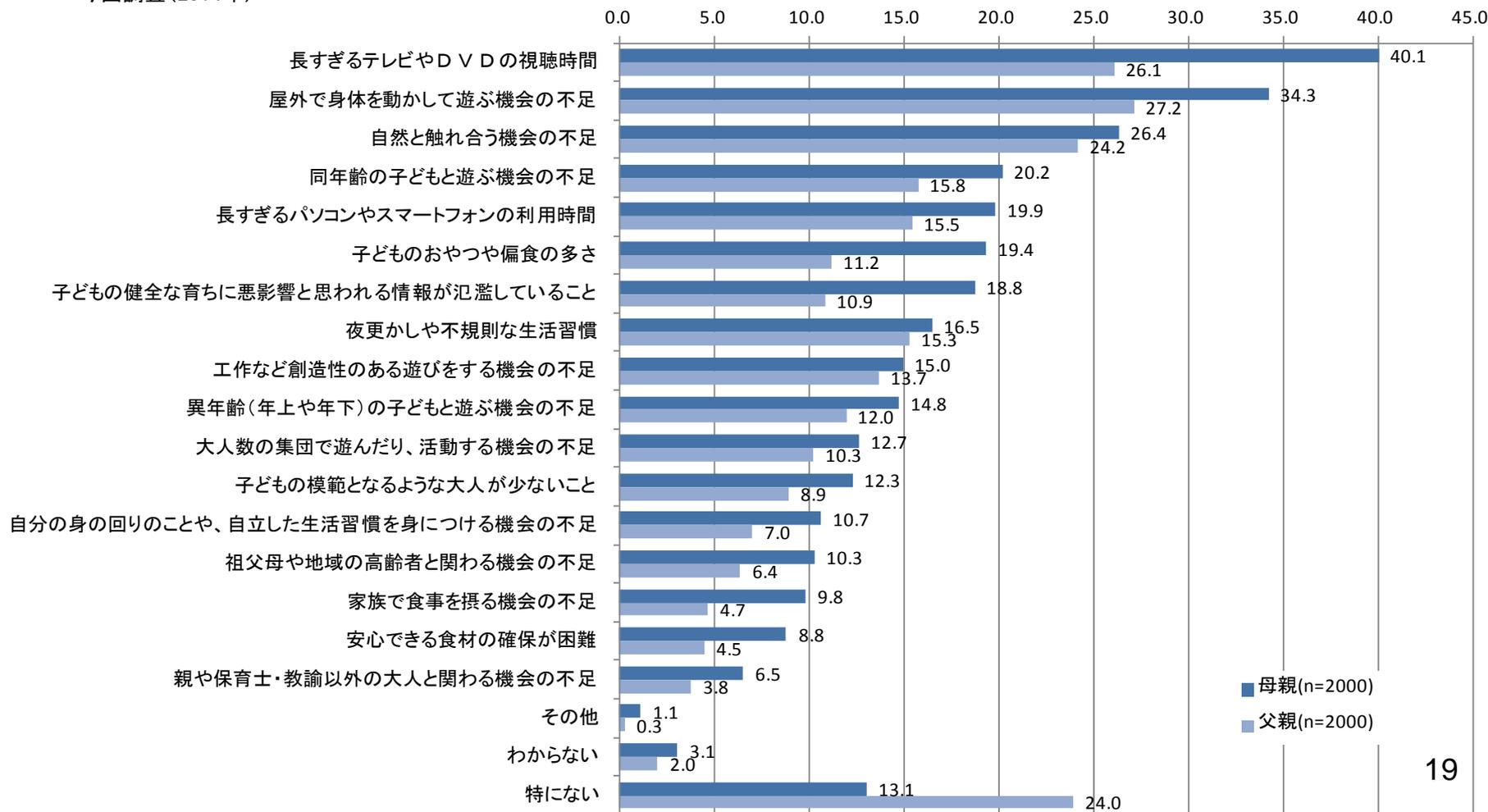


(2)子どもの育つ環境についての不安

父母の不安としては、TV・DVDやパソコン・スマートフォン等の利用が多く、屋外で身体を動かしたり、自然と触れ合ったり、同年齢の子どもたちと遊ぶ機会が不足していることなどが上位にあげられる。全体に、母親の方が不安に思っている割合が高く、父親は、「特にない」の割合(24.0%)が母親(13.1%)と比較して高い。

今回調査(2014年)

図表12 子どもの育つ環境についての不安:複数回答

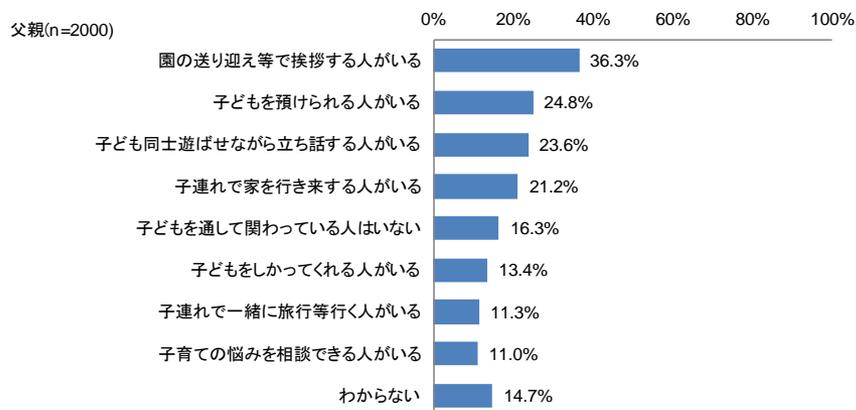


(3) 地域の中での子どもを通じた付き合い

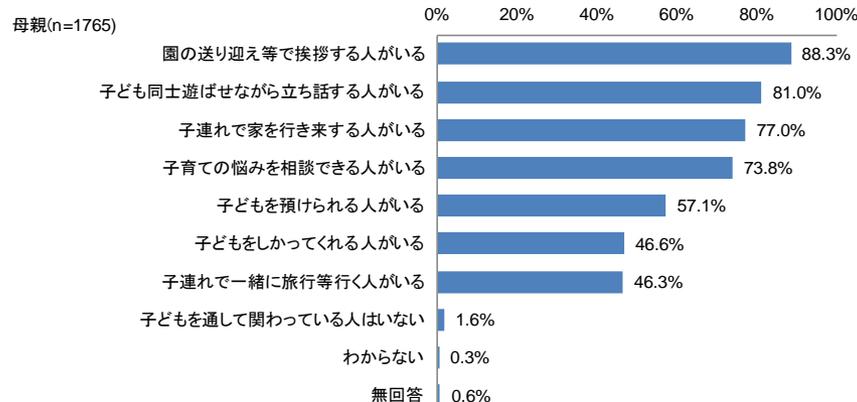
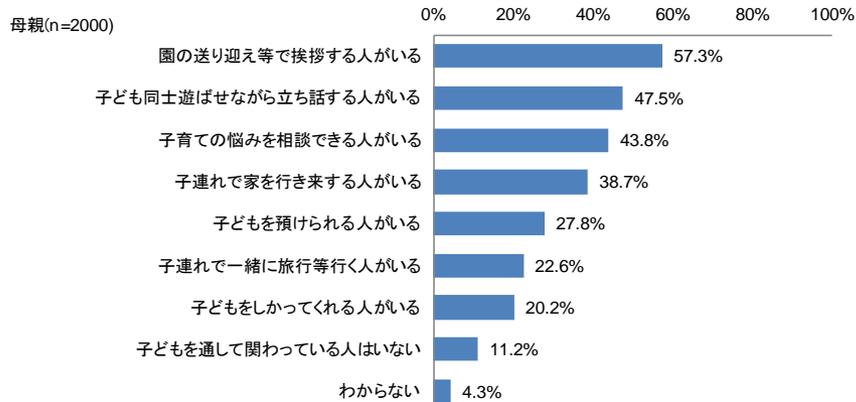
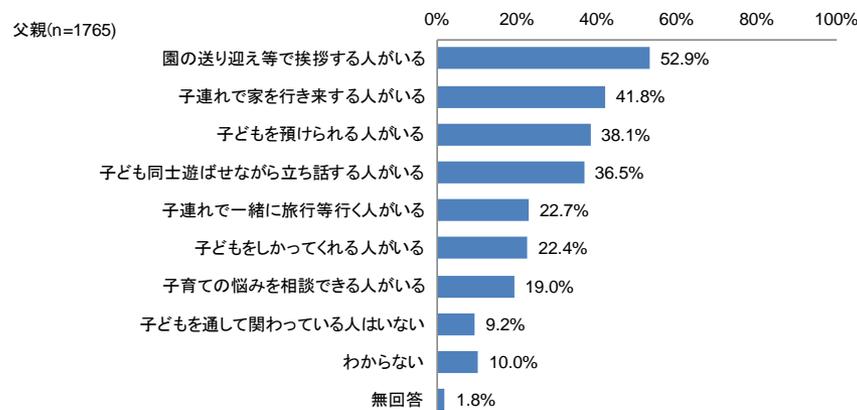
地域の中での子どもを通じた付き合いは、父親、母親ともに「園の送り迎え等で挨拶する人がいる」が最も高い割合(36.3%、57.3%)であった。ただし、前回調査では、「園の送り迎え等で挨拶する人がいる」と回答した割合は、52.9%、88.3%であり、また、「子どもを通して関わっている人はいない」とする回答が高くなっており、子どもを通じた付き合いが全体的に減少している状況が見られる。

図表13 地域の中での子どもを通じた付き合い:複数回答

今回調査(2014年)



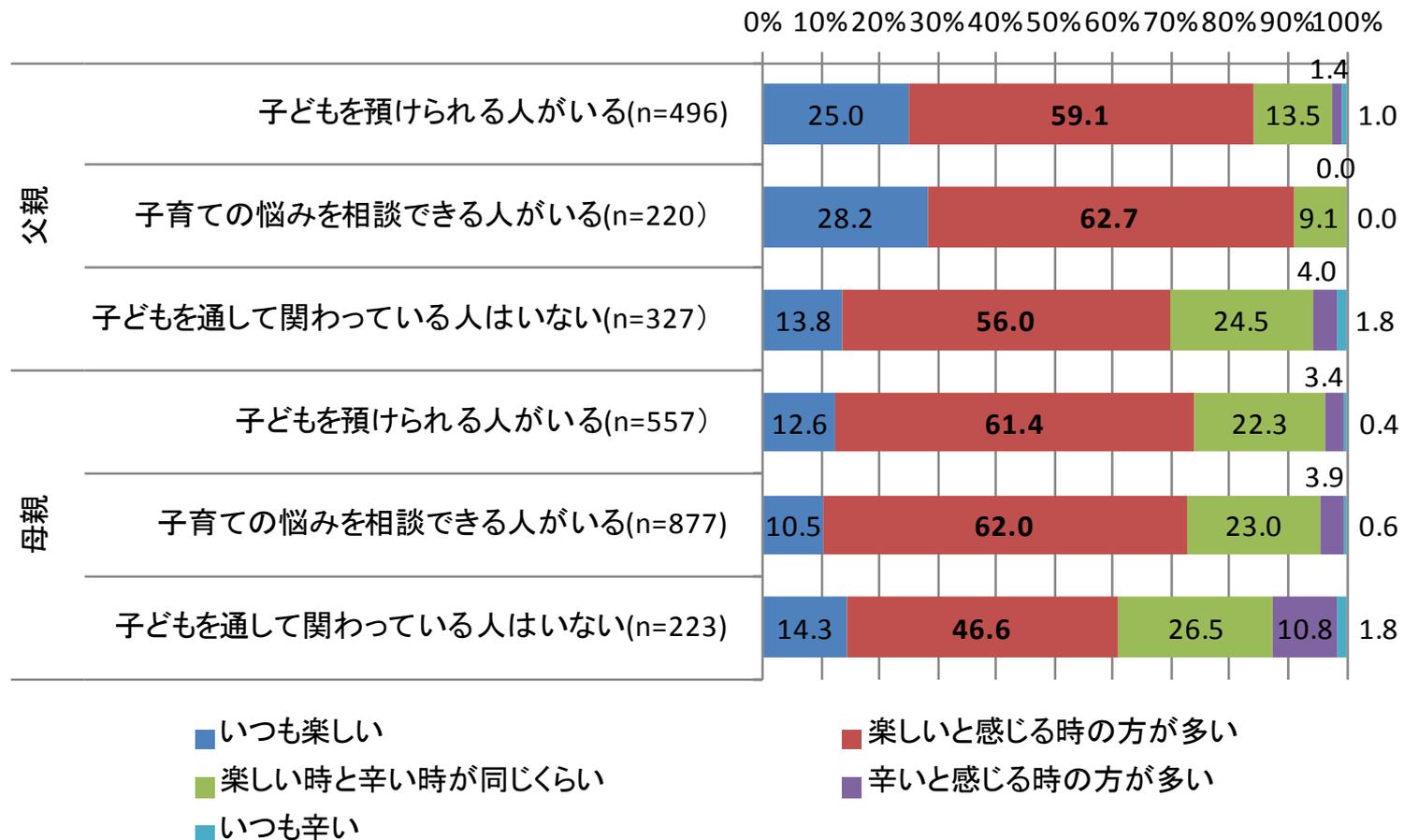
前回調査(2002年)



(4)地域の中での子どもを通じた付き合いと子育ての楽しさ

地域の中での子どもを通じた付き合いの度合いごとに、子育ての楽しさの感じ方をみると、「子どもを通して関わっている人はいない」と答えた人で、父親、母親ともに「いつも楽しい」+「楽しいと感じる時のほうが多い」と回答する割合が低い。

図表14 地域の中での子どもを通じた付き合い別子育ての楽しさ:単数回答

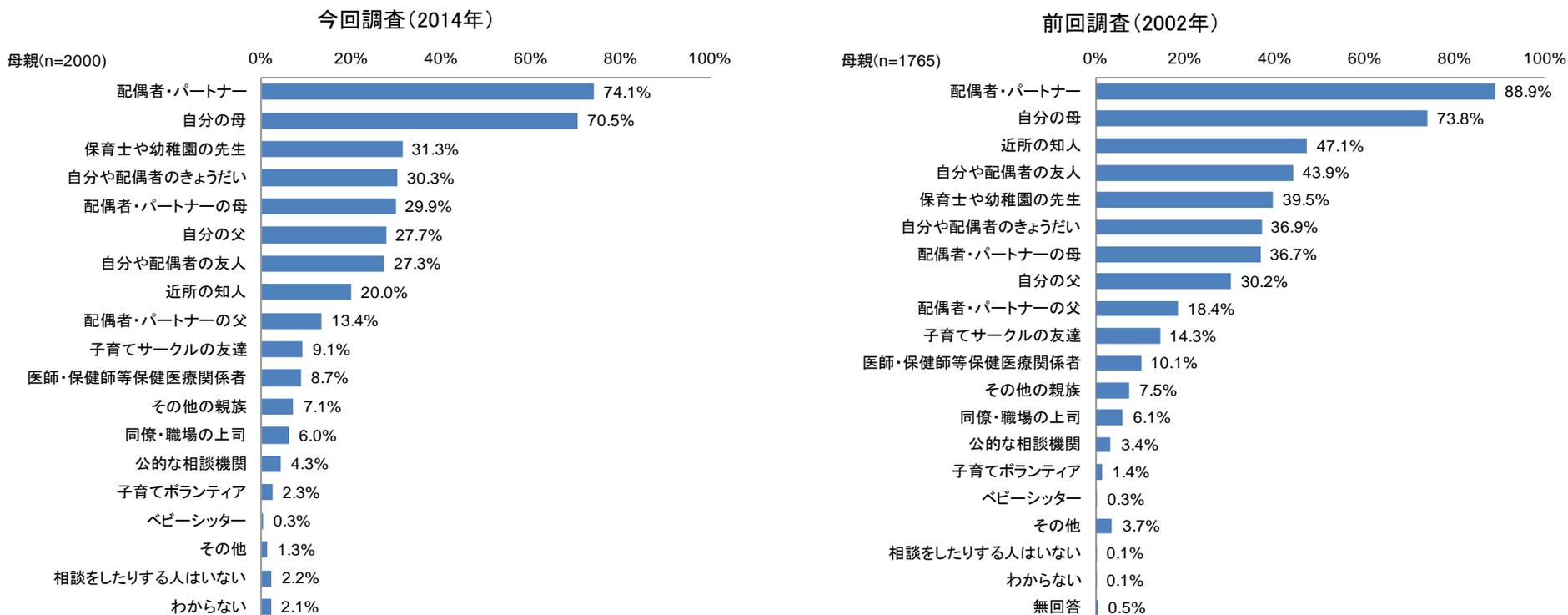


注:前頁の「地域の中での子どもを通じた付き合い」(複数回答)の選択肢「子どもを預けられる人がいる」、「子育ての悩みを相談できる人がいる」、「子どもを通して関わっている人はいない」の3つについて、それぞれ「はい」と答えた人を母数(n)として集計している。

(5)子育てについての相談相手

子育てについての相談相手は、「配偶者・パートナー」が74.1%と最も高く、次いで「自分の母親」(70.5%)であった。前回調査でも「配偶者・パートナー」(88.9%)、「自分の母」(73.8%)が高い割合であったが、前回調査で3番目に高い割合であった「近所の知人」(47.1%)は、今回調査では8番目(20.0%)であり、家族以外の近所で子育てについて相談する相手が減っている状況が見られる。

図表15 子育てについての相談相手(母親):複数回答

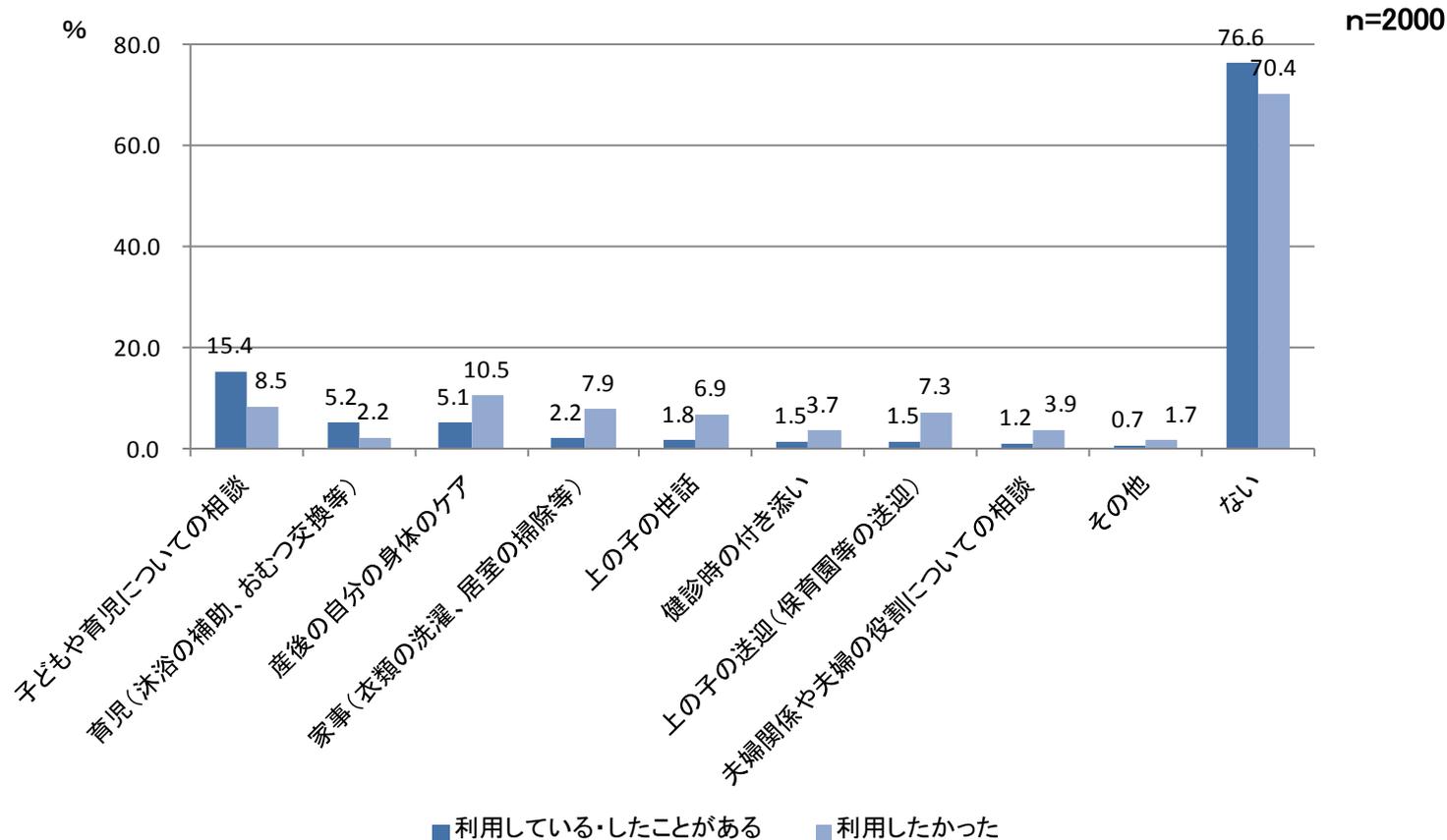


(6) 出産前後に利用した・しなかった家事・育児支援

出産前後に利用した家事・育児支援としては、「子どもや育児についての相談」がもっとも多いが、利用率としては15.4%と、あまり高い水準ではない。利用しなかった支援としては、「産後の自分の身体のケア」がもっとも多いが、これも10.5%にとどまっている。「利用したサービス」、「利用しなかったサービス」とともに、「ない」という回答が7割以上を占めている。出産前後の支援については、保育等の子育て支援に比べて、まだあまり浸透していないとみられる。

今回調査(2014年)

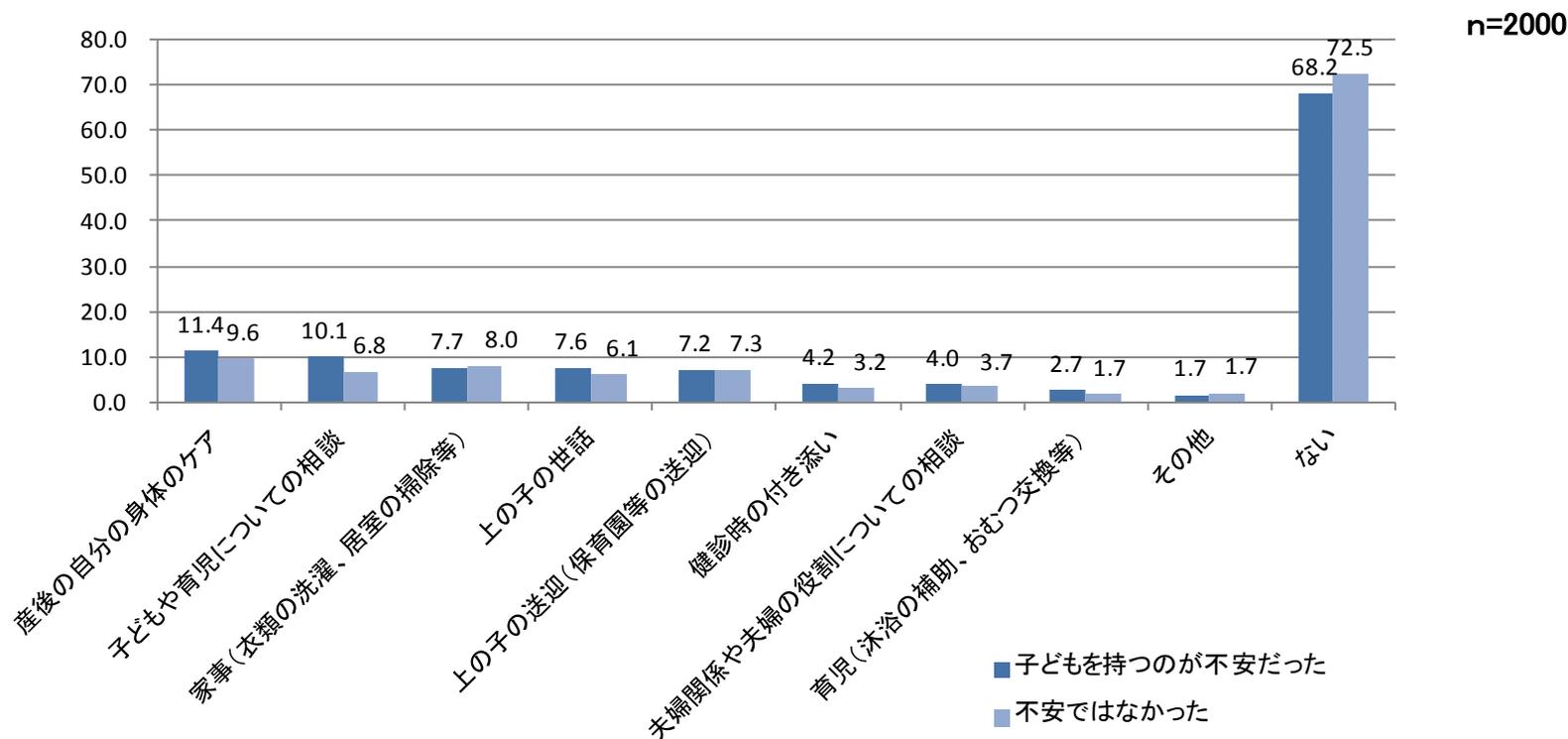
図表16 出産前後に利用した・しなかった家事・育児支援サービス(母親):複数回答



(7)子どもを持つ不安と出産前後に利用したかった家事・育児支援

出産前の子どもを持つことの不安の有無別に「利用したかった」出産前後のサービスをみると、全体に「子どもを持つのが不安だった」人で支援の利用意向がわずかに高いが、その差は小さい。支援の対象とみられる人にも、まだ支援の内容が浸透していないか、支援ニーズにあったサービスになっていない可能性がある。

図表17 子どもを持つ不安の有無別出産前後に利用したかった家事・育児支援サービス(母親)
:複数回答

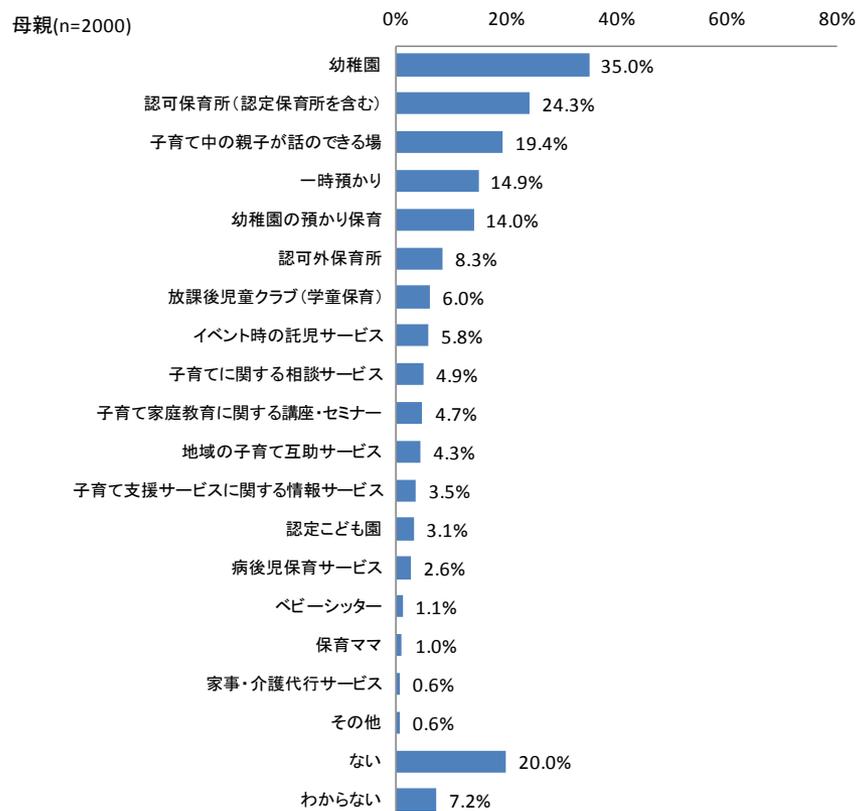


(8)子育て支援サービスの利用状況

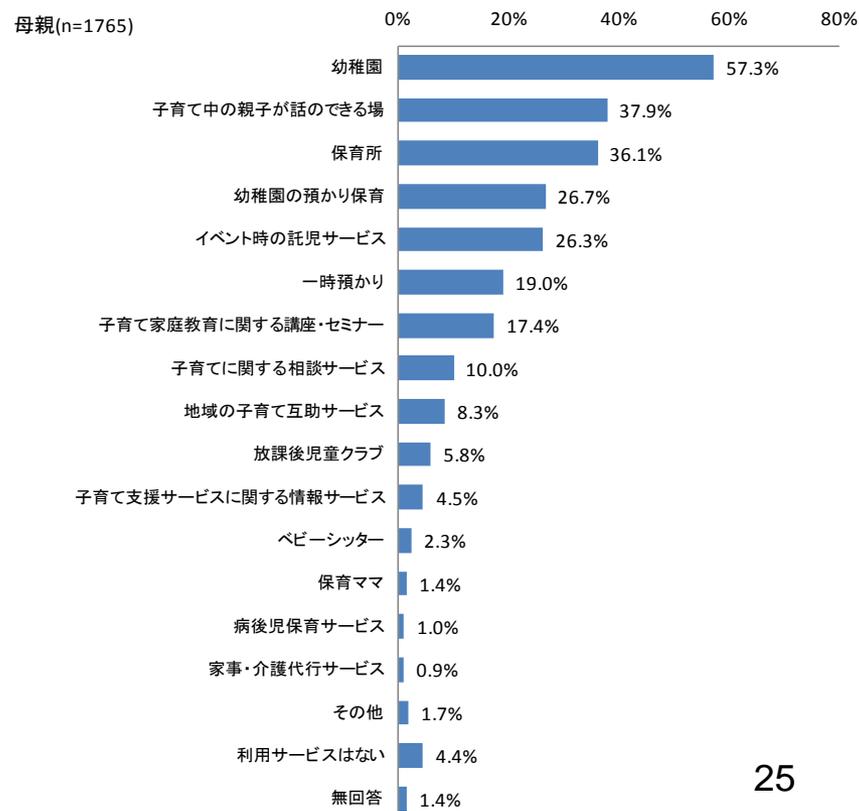
利用している・したことのある子育て支援サービスについて最も多いのは「幼稚園」の35.0%、次いで「認可保育所(認定保育所を含む)」が24.3%であった。前回調査では、「幼稚園」が最も多く57.3%、次いで「子育て中の親子が話のできる場」が37.9%であり、2位と3位が入れ替わっている。また、前回調査に比べて利用したことのあるサービスが「ない」と答えている割合が高い。

図表18 利用している・したことのある子育て支援サービス(母親):複数回答

今回調査(2014年)



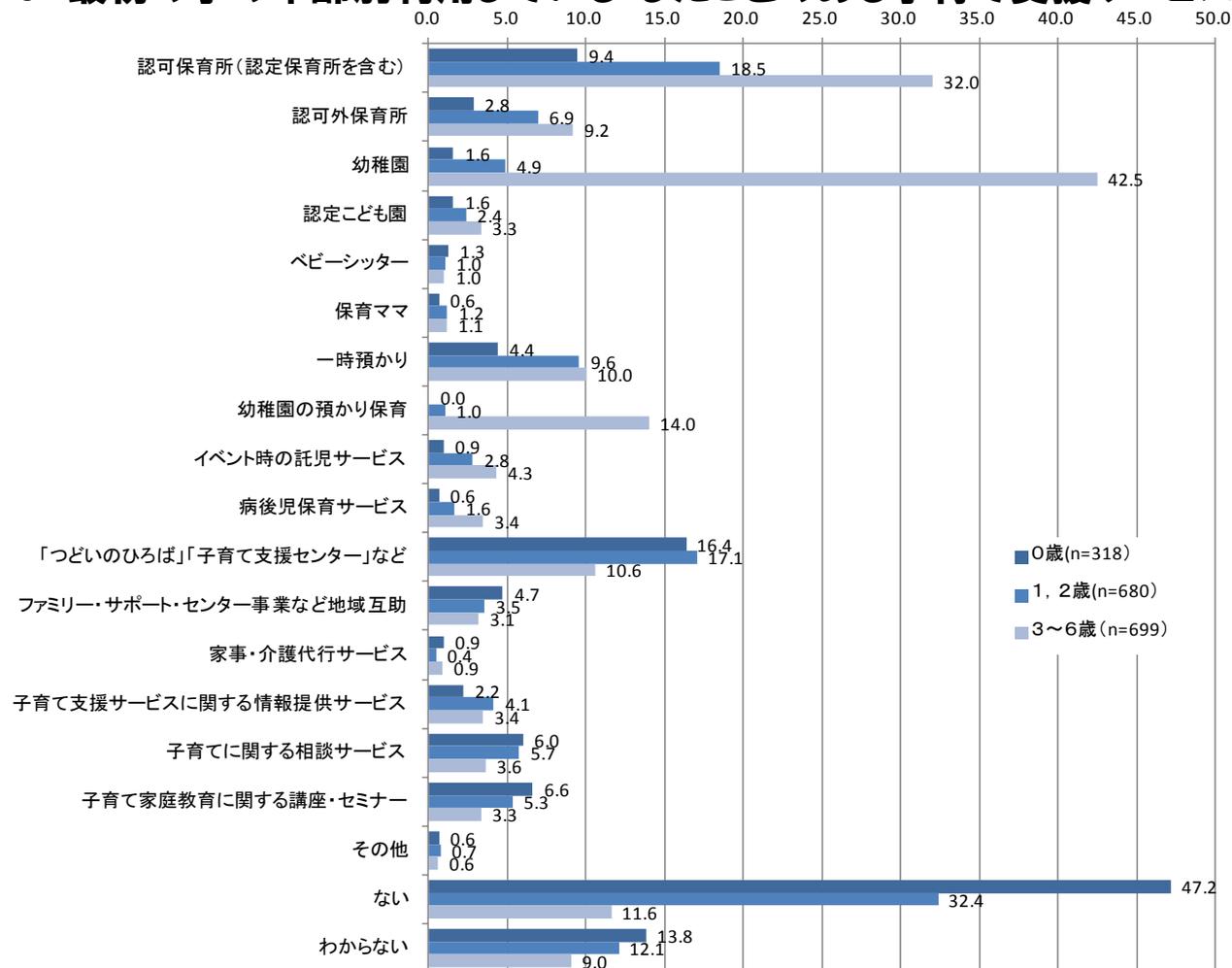
前回調査(2002年)



(9)一人目の子の年齢別子育て支援の利用状況

子が一人の親について、子の年齢別に利用している・したことのある子育て支援サービスについてみると、子の年齢が低いほど、利用したサービスが「ない」あるいは「わからない」の割合が高い。

図表19 最初の子の年齢別利用している・したことのある子育て支援サービス：複数回答



注:「子が一人のみ」の回答者(1697件)を母数とした。

(10)夫婦の就業形態と子育て支援の利用状況

夫婦の就業形態の組み合わせ別にサービスの利用状況は、下表のとおりである。「専業主婦(夫)」の家庭で、利用しているサービスは「ない」と回答する割合が高い。

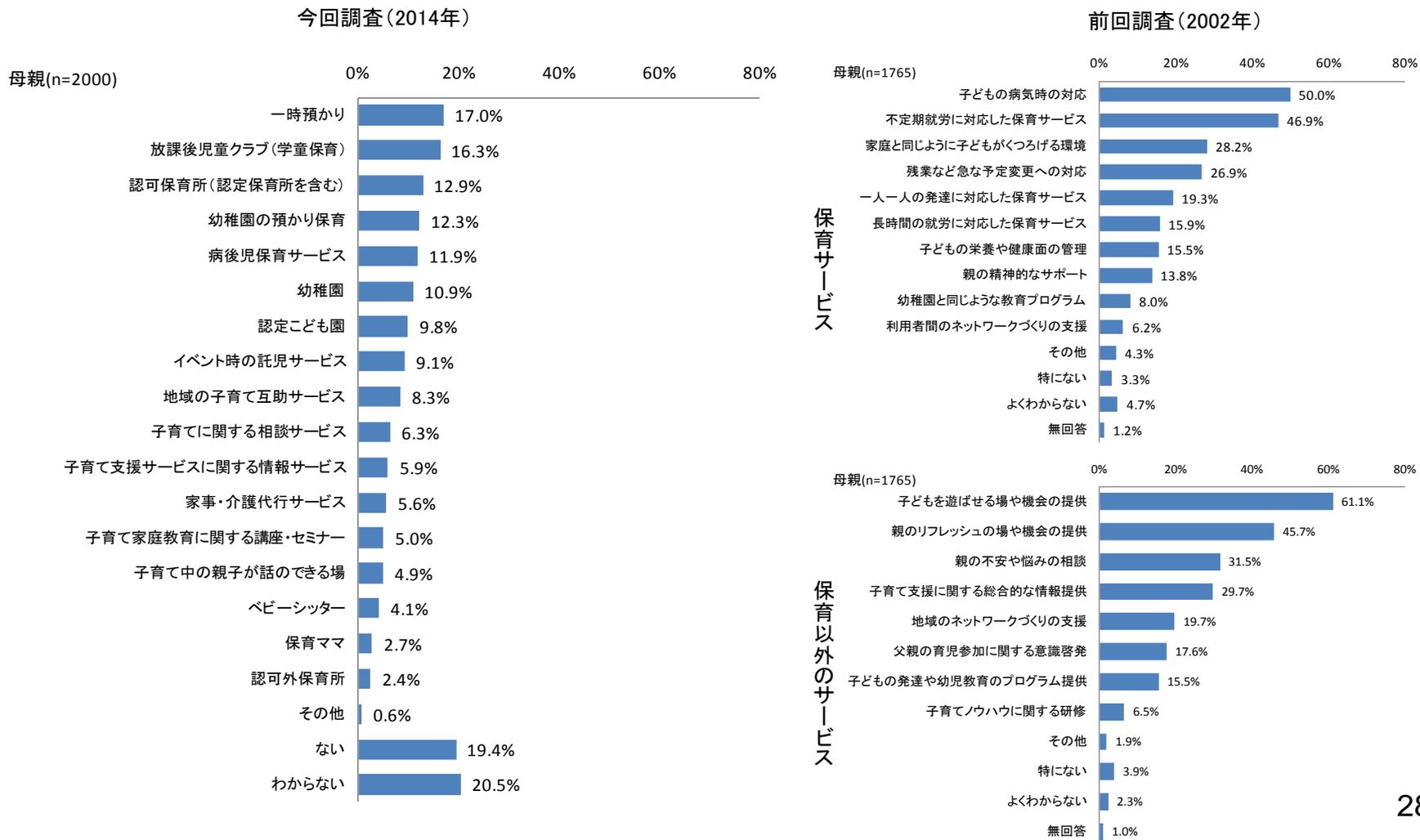
図表20 夫婦の就業形態別利用している・したことのある子育て支援サービス：複数回答

		利用している・したことのあるサービス										
		合計	認可保育所 (認定保育 所を含む)	認可外保育 所	幼稚園	認定こども 園	ベビーシッ ター	保育ママ	一時預かり	幼稚園の預 かり保育	イベント時 の託児サー ビス	放課後児童 クラブ(学 童保育)
全体		4000 100.0	1072 26.8	299 7.5	1418 35.5	141 3.5	49 1.2	49 1.2	456 11.4	472 11.8	148 3.7	243 6.1
夫婦の 就業 形態	正社員×正社員	619 100.0	352 56.9	80 12.9	84 13.6	32 5.2	12 1.9	13 2.1	51 8.2	27 4.4	20 3.2	66 10.7
	正社員×非正社員	853 100.0	332 38.9	102 12.0	294 34.5	34 4.0	14 1.6	16 1.9	116 13.6	125 14.7	32 3.8	83 9.7
	非正社員×非正社員	203 100.0	101 49.8	15 7.4	57 28.1	7 3.4	2 1.0	4 2.0	32 15.8	26 12.8	5 2.5	16 7.9
	正社員×専業主婦 (夫)	2038 100.0	225 11.0	87 4.3	882 43.3	62 3.0	19 0.9	14 0.7	232 11.4	259 12.7	85 4.2	68 3.3
	非正社員×専業主婦 (夫)	197 100.0	24 12.2	8 4.1	82 41.6	5 2.5	1 0.5	1 0.5	18 9.1	30 15.2	6 3.0	5 2.5
	ともに働いていない	13 100.0	0 0.0	1 7.7	7 53.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		利用している・したことのあるサービス つづき										
		合計	病後児保育 サービス	「つどいの ひろば」 「子育て支 援セン	ファミリー・サ ポート・セン ターなど地域互 助サービス	家事・介護 代行サービ ス	子育て支援 サービスに 関する情報 提供サービ	子育てに関 する相談 サービス	子育て家庭 教育に関す る講座・セ ミナー	その他	ない	わからない
全体		4000 100.0	84 2.1	485 12.1	158 4.0	31 0.8	109 2.7	145 3.6	136 3.4	22 0.6	721 18.0	381 9.5
夫婦の 就業 形態	正社員×正社員	619 100.0	38 6.1	54 8.7	34 5.5	9 1.5	11 1.8	17 2.7	19 3.1	2 0.3	62 10.0	51 8.2
	正社員×非正社員	853 100.0	23 2.7	83 9.7	37 4.3	0 0.0	17 2.0	29 3.4	22 2.6	3 0.4	99 11.6	71 8.3
	非正社員×非正社員	203 100.0	7 3.4	24 11.8	7 3.4	1 0.5	7 3.4	6 3.0	6 3.0	2 1.0	28 13.8	17 8.4
	正社員×専業主婦 (夫)	2038 100.0	15 0.7	290 14.2	69 3.4	19 0.9	68 3.3	84 4.1	80 3.9	13 0.6	466 22.9	210 10.3
	非正社員×専業主婦 (夫)	197 100.0	0 0.0	27 13.7	6 3.0	1 0.5	5 2.5	6 3.0	7 3.6	1 0.5	55 27.9	19 9.6
	ともに働いていない	13 100.0	0 0.0	2 15.4	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 23.1	2 15.4

(11)利用したい子育て支援サービス

利用したい子育て支援サービスについて最も多いのは「わからない」が20.5%、次いで「ない」(19.4%)、「一時預かり」(17.0%)、「放課後児童クラブ(学童保育)」16.3%であった。

図表21 利用したい子育て支援サービス(母親):複数回答



(12)夫婦の就業形態と子育て支援の利用意向

夫婦の就業形態別のサービスの利用意向(現在利用していないが利用したい)は、下表のとおりである。全体にそれほど高くはないが、「専業主婦(夫)」の家庭で、もっとも利用意向の高いサービスは「一時預かり」である。

図表22 夫婦の就業形態別利用したい子育て支援サービス:複数回答

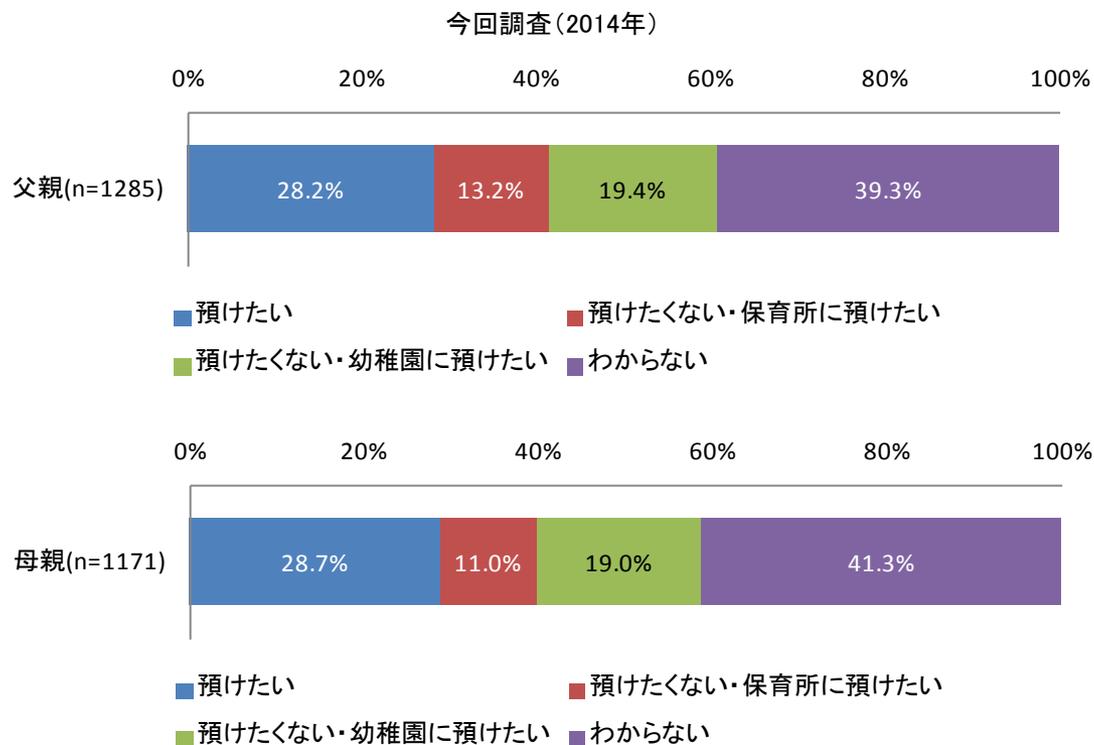
		(利用していないが)利用したいサービス											
		合計	認可保育所 (認定保育 所を含む)	認可外保育 所	幼稚園	認定こども 園	ベビーシッ ター	保育ママ	一時預かり	幼稚園の預 かり保育	イベント時 の託児サー ビス	放課後児童 クラブ(学 童保育)	
全体		4000 100.0	420 10.5	106 2.7	384 9.6	305 7.6	130 3.3	89 2.2	518 13.0	340 8.5	277 6.9	507 12.7	
夫婦の 就業 形態	正社員×正社員	619 100.0	69 11.1	18 2.9	45 7.3	56 9.0	25 4.0	14 2.3	67 10.8	28 4.5	36 5.8	94 15.2	
	正社員×非正社員	853 100.0	73 8.6	15 1.8	48 5.6	63 7.4	24 2.8	16 1.9	84 9.8	41 4.8	49 5.7	121 14.2	
	非正社員×非正社員	203 100.0	12 5.9	4 2.0	10 4.9	9 4.4	15 7.4	5 2.5	24 11.8	12 5.9	12 5.9	34 16.7	
	正社員×専業主婦 (夫)	2038 100.0	225 11.0	60 2.9	250 12.3	154 7.6	52 2.6	43 2.1	288 14.1	233 11.4	159 7.8	229 11.2	
	非正社員×専業主婦 (夫)	197 100.0	32 16.2	4 2.0	24 12.2	14 7.1	7 3.6	4 2.0	39 19.8	17 8.6	17 8.6	18 9.1	
	ともに働いていない	13 100.0	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7	0 0.0	0 0.0	1 7.7	4 30.8	1 7.7	1 7.7

		(利用していないが)利用したいサービス つづき										
		合計	病後児保育 サービス	「つどいの ひろば」 「子育て支 援セン ター」な ど)	ファミリー・サ ポート・セン ターなど地域互 助サービス	家事・介護 代行サービ ス	子育て支援 サービスに 関する情報 提供サービ ス	子育てに関 する相談 サービス	子育て家庭 教育に関す る講座・セ ミナー	その他	ない	わからない
全体		4000 100.0	329 8.2	140 3.5	223 5.6	159 4.0	181 4.5	206 5.2	168 4.2	22 0.6	971 24.3	929 23.2
夫婦の 就業 形態	正社員×正社員	619 100.0	81 13.1	13 2.1	30 4.8	28 4.5	27 4.4	30 4.8	31 5.0	6 1.0	134 21.6	126 20.4
	正社員×非正社員	853 100.0	69 8.1	24 2.8	44 5.2	30 3.5	36 4.2	30 3.5	29 3.4	3 0.4	217 25.4	213 25.0
	非正社員×非正社員	203 100.0	19 9.4	7 3.4	13 6.4	9 4.4	4 2.0	9 4.4	9 4.4	0 0.0	67 33.0	44 21.7
	正社員×専業主婦 (夫)	2038 100.0	132 6.5	75 3.7	116 5.7	76 3.7	97 4.8	119 5.8	88 4.3	10 0.5	474 23.3	481 23.6
	非正社員×専業主婦 (夫)	197 100.0	15 7.6	15 7.6	15 7.6	9 4.6	11 5.6	12 6.1	8 4.1	3 1.5	61 31.0	40 20.3
	ともに働いていない	13 100.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 30.8	4 30.8

(13) 認定こども園が増えた際の認定こども園の利用意向

認定こども園が増えた際の認定こども園の利用意向について父親、母親ともに最も多いのは「わからない」がそれぞれ39.3%、41.3%であり、次いで「預けたい」(28.2%、28.7%)、「預けたくない・幼稚園に預けたい」(19.4%、19.0%)、「預けたくない・保育所に預けたい」(13.2%、11.0%)の順であった。また、制度や保育・教育内容について知られておらず判断が難しい状況にあるとみられる。

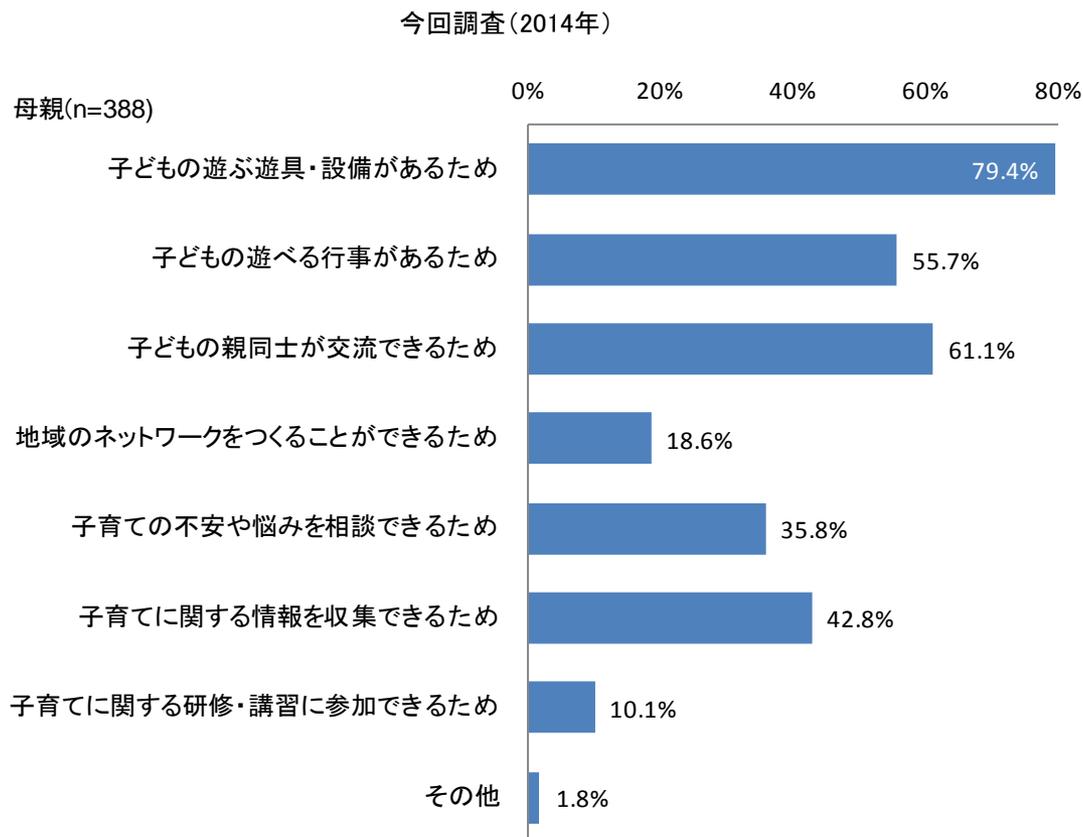
図表23 認定こども園が増えた際の認定こども園の利用意向：単数回答



(14)子育て中の親と子とが気軽に集まって話ができる場(「つどいのひろば」「子育て支援センター」など)を利用する理由

子育て中の親と子とが気軽に集まって話ができる場(「つどいのひろば」「子育て支援センター」など)を利用する理由として最も多いのは、「子どもの遊べる遊具・設備があるため」が79.4%であり、次いで「子どもの親同士が交流できるため」が61.1%であった。

図表24 子育て中の親と子とが気軽に集まって話ができる場を利用する理由(母親):複数回答



3. 子育てにおける父母の役割分担

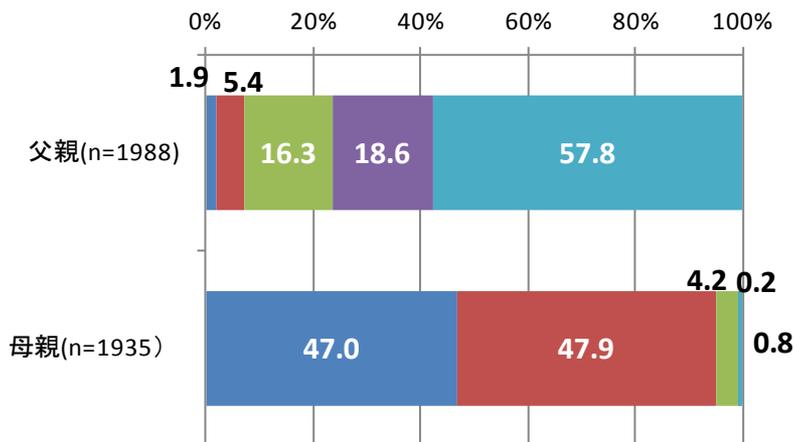
(1) 家事、子育ての役割分担

① 家事の役割分担

家事の役割分担について、父親で最も多いのは「配偶者・パートナーが主で自分が一部担っている」が57.8%、次いで「配偶者・パートナーがすべて担っている」が18.6%である。一方、母親で最も多いのは「自分が主で、配偶者・パートナーが一部担っている」が47.9%、次いで、「自分がすべて担っている」が47.0%である。

図表25 家事の役割分担：単数回答

今回調査(2014年)

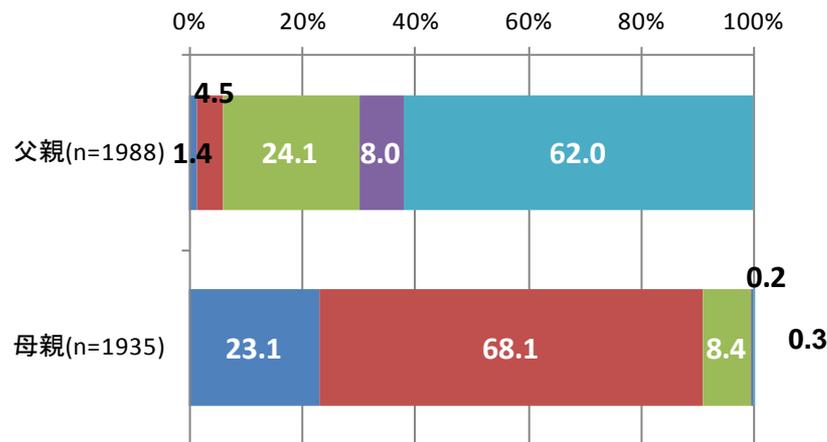


- 自分がすべて担っている
- 自分が主で配偶者・パートナーが一部担っている
- 自分と配偶者・パートナーが同程度に担っている
- 配偶者・パートナーがすべて担っている
- 配偶者・パートナーが主で自分が一部担っている

② 子育ての役割分担

子育ての役割分担について、父親で最も多いのは「配偶者・パートナーが主で自分が一部担っている」が62.0%、次いで「自分と配偶者・パートナーが同程度に担っている」が24.1%である。一方、母親で最も多いのは「自分が主で、配偶者・パートナーが一部担っている」が68.1%、次いで、「自分がすべて担っている」が23.1%である。家事よりも子育ての方が夫婦で担われている。

図表26 子育ての役割分担：単数回答



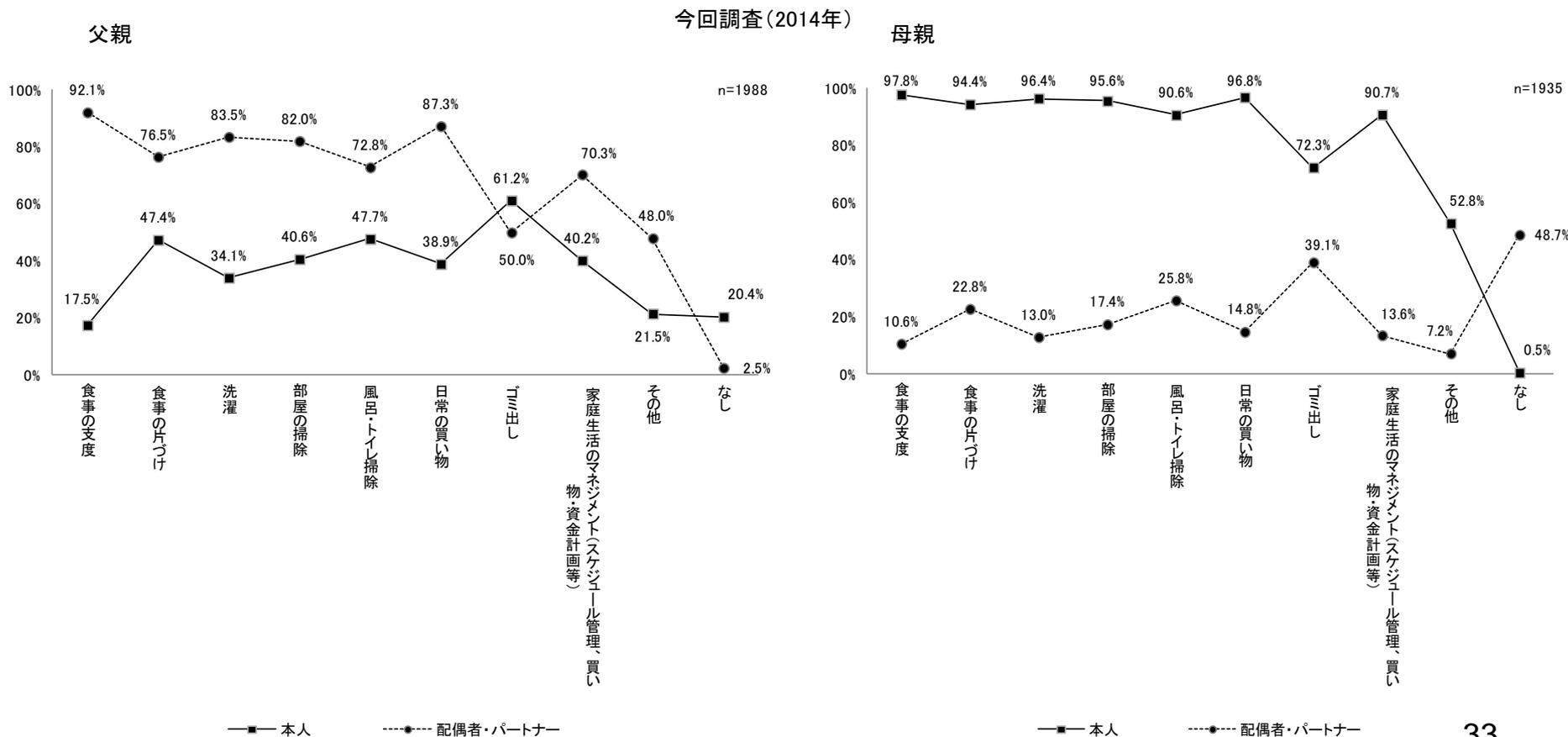
- 自分がすべて担っている
- 自分が主で配偶者・パートナーが一部担っている
- 自分と配偶者・パートナーが同程度に担っている
- 配偶者・パートナーがすべて担っている
- 配偶者・パートナーが主で自分が一部担っている

(2)担っている家事、子育て

①担っている家事

父親自身が担っていると考え、また、母親が配偶者・パートナー(父親)が担っていると考えている家事で最も多いものは、ともに「ゴミ出し」(61.2%、39.1%)であった。一方、母親自身が担っていると考え、また、父親が配偶者・パートナー(母親)が担っていると考えている家事で最も多いものは、ともに「食事の支度」(97.8%、92.1%)であった。

図表27 担っている家事 : 複数回答

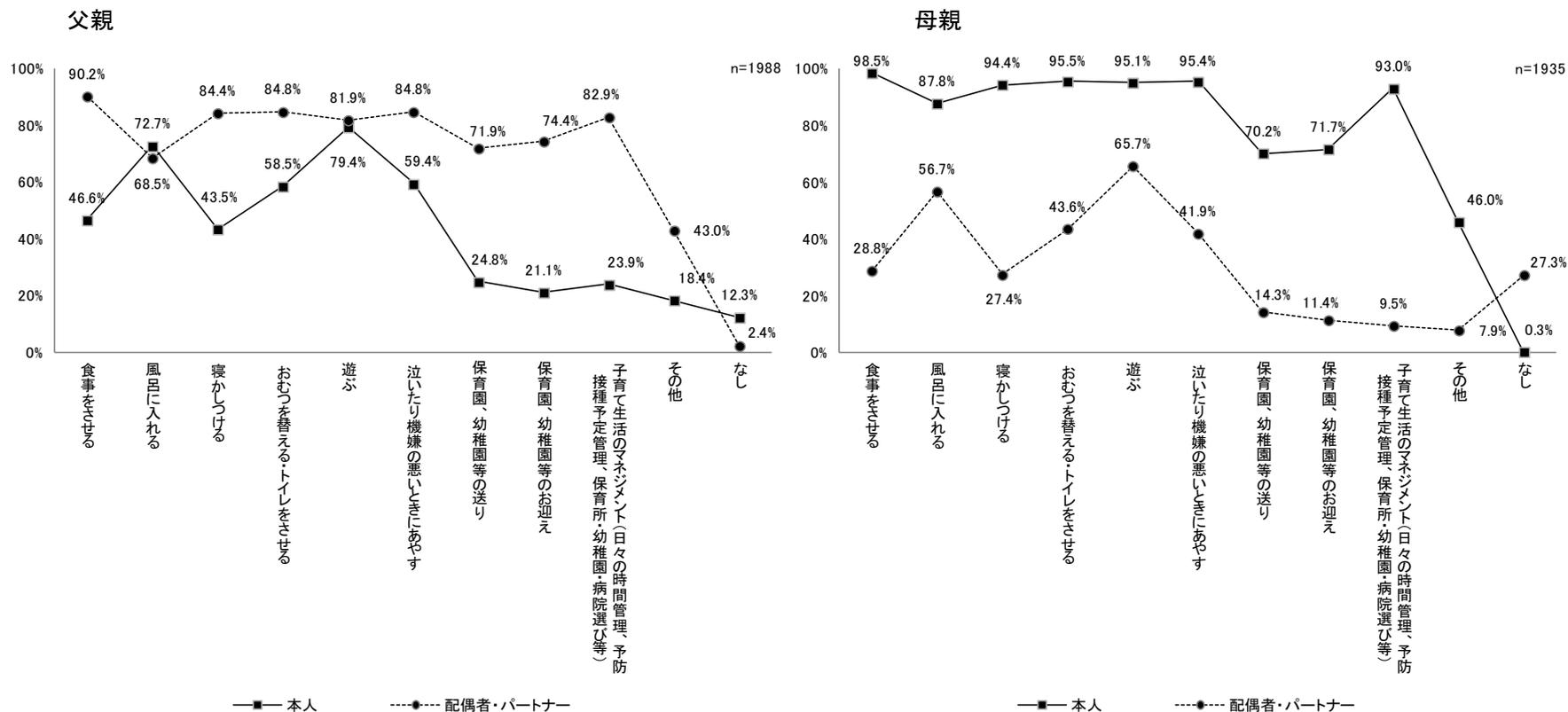


②担っている子育て

父親自身が担っていると考え、また、母親が配偶者・パートナー(父親)が担っていると考えている子育てで最も多いものは、ともに「遊ぶ」(79.4%、65.7%)であった。一方、母親自身が担っていると考え、また、父親が配偶者・パートナー(母親)が担っていると考えている子育てで最も多いものは、ともに「食事をさせる」(98.5%、90.2%)であった。

図表28 担っている子育て：複数回答

今回調査(2014年)



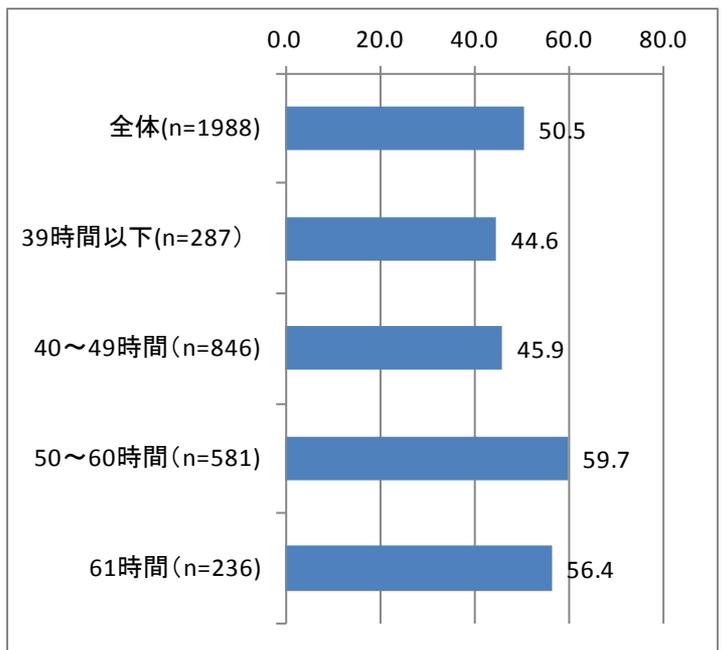
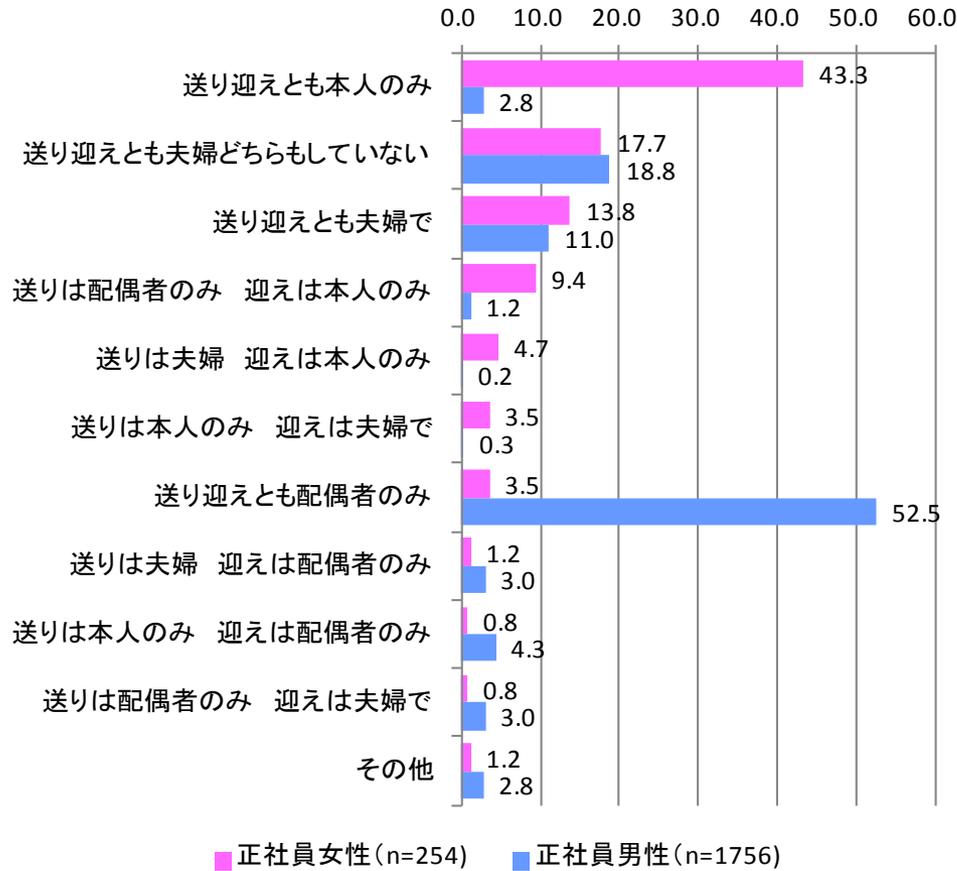
③ 保育園等の送り迎えの分担

保育園・幼稚園等の送り迎えの実態を把握するため、正社員男性(父親)と正社員女性(母親)に絞って、夫婦とそれ以外の人との役割の組み合わせを集計した。母親が送り迎えとも本人のみの割合は43.3%であり、父親が配偶者のみに送り迎えを任せている割合は52.5%である。父親の週あたり労働時間が50時間以上では、配偶者に任せる割合が高くなっている。送り迎えとも父母以外という回答も母親・父親ともに18%前後ある。

今回調査(2014年)

図表29 正社員男性・女性の保育園等の送り迎えの分担

図表30 「送り迎えとも配偶者のみ」と回答した正社員男性の週あたり労働時間



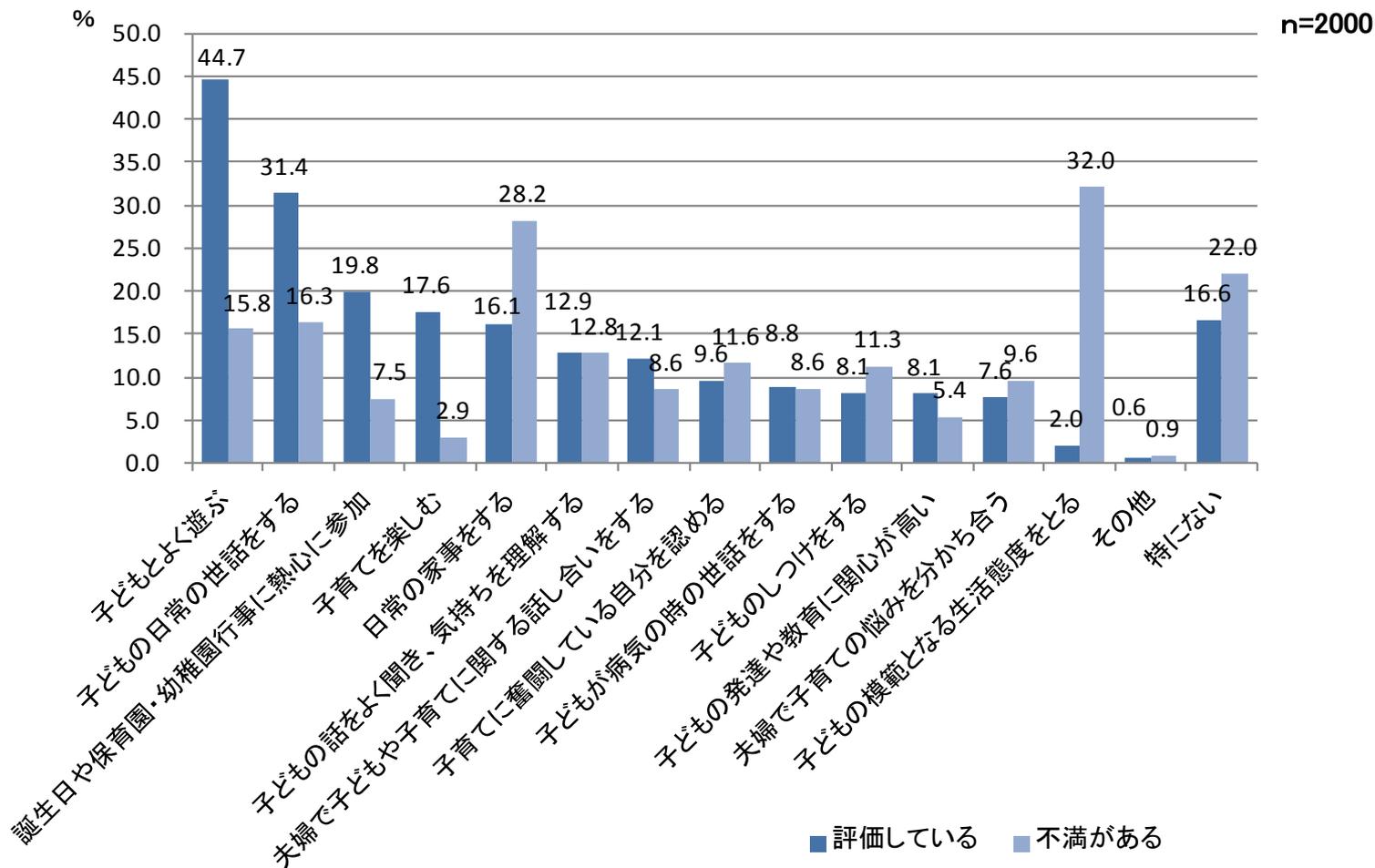
注: 配偶者の就業形態は正社員に限らない。専業主婦・夫も含む。

(3)父親の家事・子育てについての母親の評価点・不満点

父親の家事・子育てへの関わりについて、母親が評価している点としては、「子どもとよく遊ぶ」、「子どもの日常の世話をする」が多くあげられている。一方、不満な点としては、「子どもの模範となる生活態度をとる」、「日常の家事をする」が多くあげられている。ただし、不満な点は「特にない」という回答も2割を超える。

今回調査(2014年)

図表31 父親の家事・子育てに対する母親の評価点・不満点:複数回答

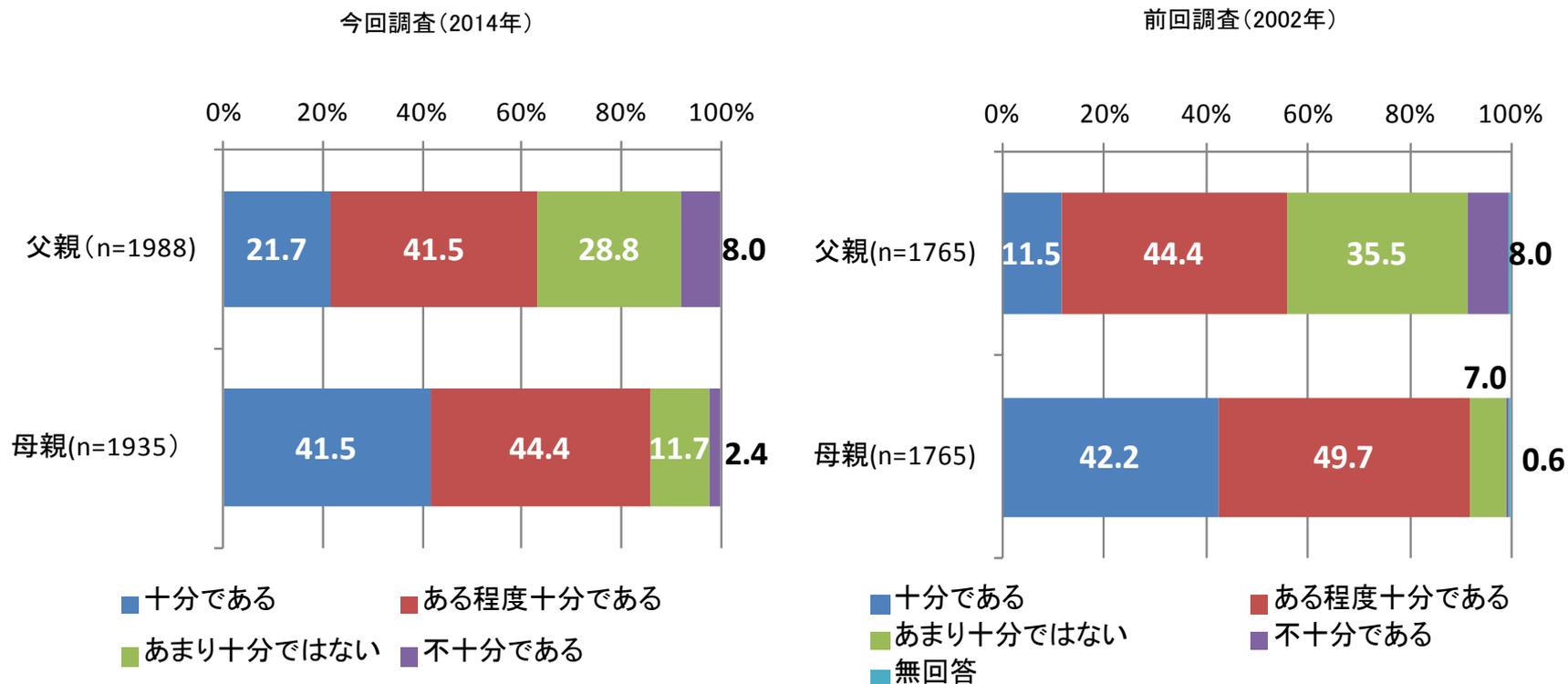


(4)子育てへの関わり度合い

自身の子育てへの関わり度合いについて、父親でもっとも多いのは「ある程度は十分である」で41.5%であり、「ある程度は十分である」と「十分である」の合計は63.2%である。一方、母親でもっとも多いのは「ある程度は十分である」で44.4%であり、「ある程度は十分である」と「十分である」の合計は85.9%である。

前回調査では、自身の関わりについて「十分である」と「ある程度は十分である」を合計した割合は父親で55.9%、母親で91.9%であった。

図表32 子育てへの関わり度合い:単数回答



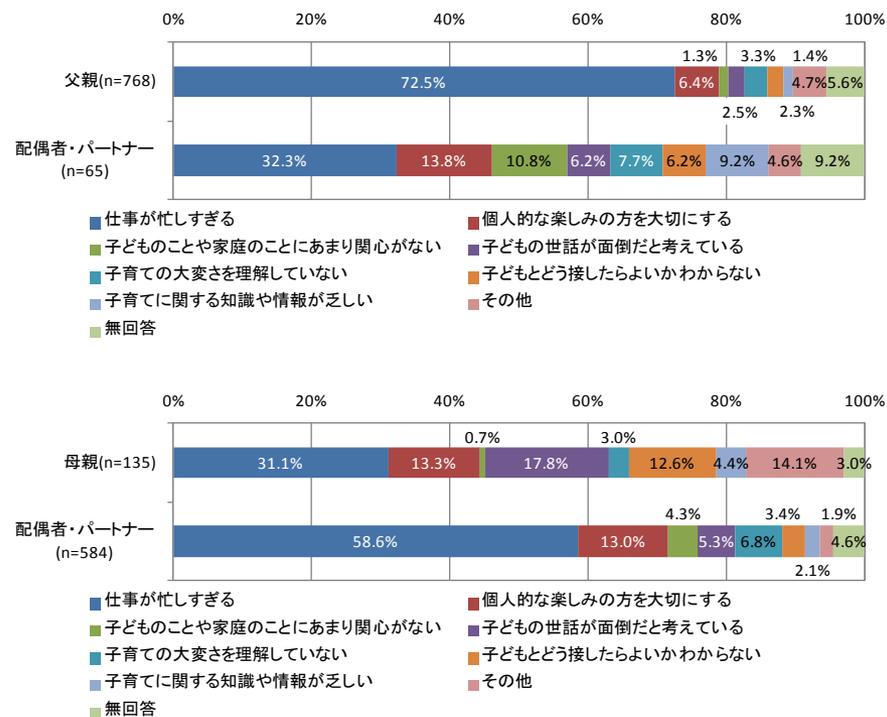
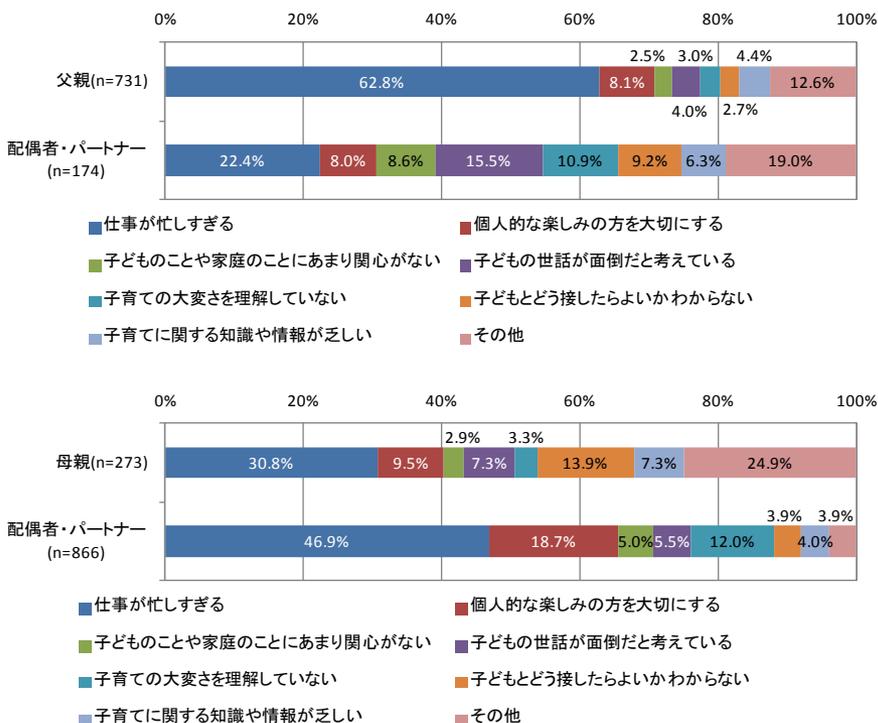
(5)子育てへの関わりが十分でない原因

自身の子育てへの関わりが十分でない一番の原因について、父親で最も多いのは「仕事が忙しすぎる」で、62.8%、次いで、「趣味や自分の個人的な楽しみの方を大切にするため」で、8.1%である。一方、母親で最も多いのは「仕事が忙しすぎる」で、30.8%、次いで、「子どもとどう接したらよいかわからないため」で13.9%である。前回調査でも、父親、母親ともに、「仕事が忙しすぎる」と回答した割合が最も高く、それぞれ72.5%、31.1%であった。

図表33 子育てへの関わりが十分でない原因：単数回答

今回調査(2014年)

前回調査(2002年)

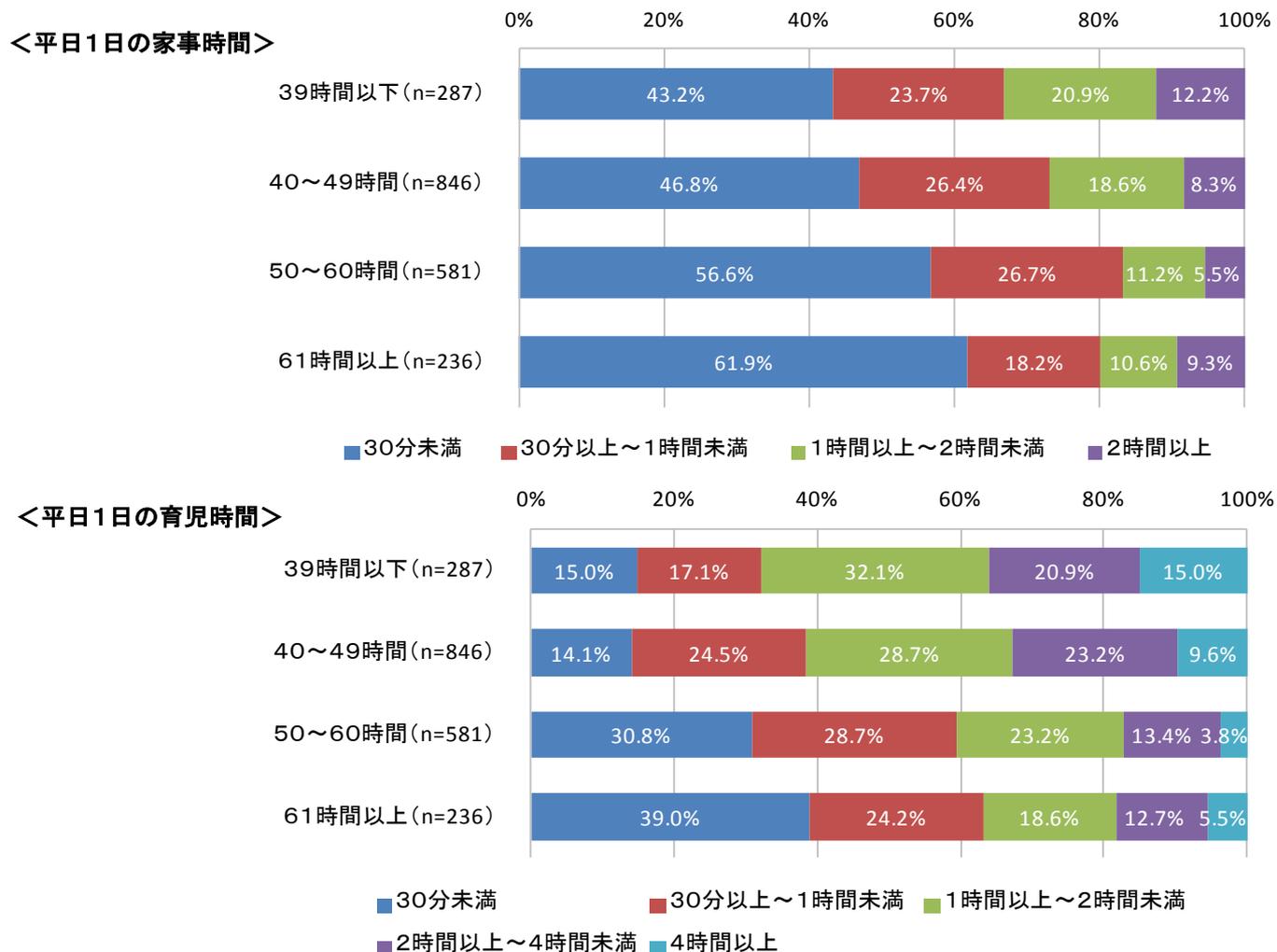


(6)父親の労働時間と家事・育児時間

父親について、週当たり労働時間別に平日1日あたりの家事・育児時間をみると、家事時間は、労働時間が長いほど、1日「30分未満」の割合が高くなっている。育児時間は、家事時間よりは全体に長い傾向がみられ、労働時間が長いほど1時間未満までの割合が高くなっている。

今回調査(2014年)

図表34 父親の労働時間別家事・育児時間:単数回答



4. 仕事と子育ての両立の状況

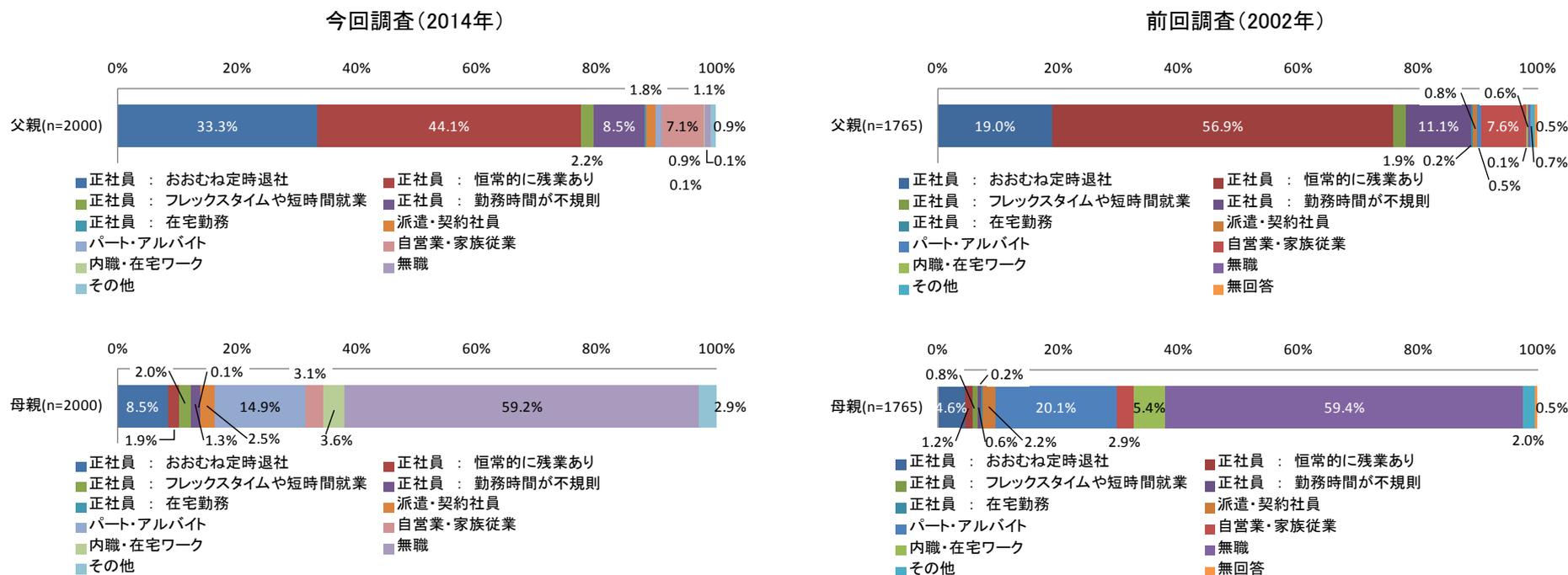
(1) 就業形態

① 回答者

父親の就業形態で最も多いのは、「正社員：恒常的に残業あり」で44.1%、次いで「正社員：おむね定時退社」で33.3%である。一方、母親の就業形態で最も多いものは「無職」で59.2%、次いで「パート・アルバイト」で14.9%である。

前回調査でも、父親は、「正社員：恒常的に残業あり」がもっとも多く、今回調査よりも高い割合で56.9%と過半数を占めた。母親は、前回は「無職」がもっとも多く59.4%で今回とほぼ同じ割合であった。

図表35 就業形態：単数回答

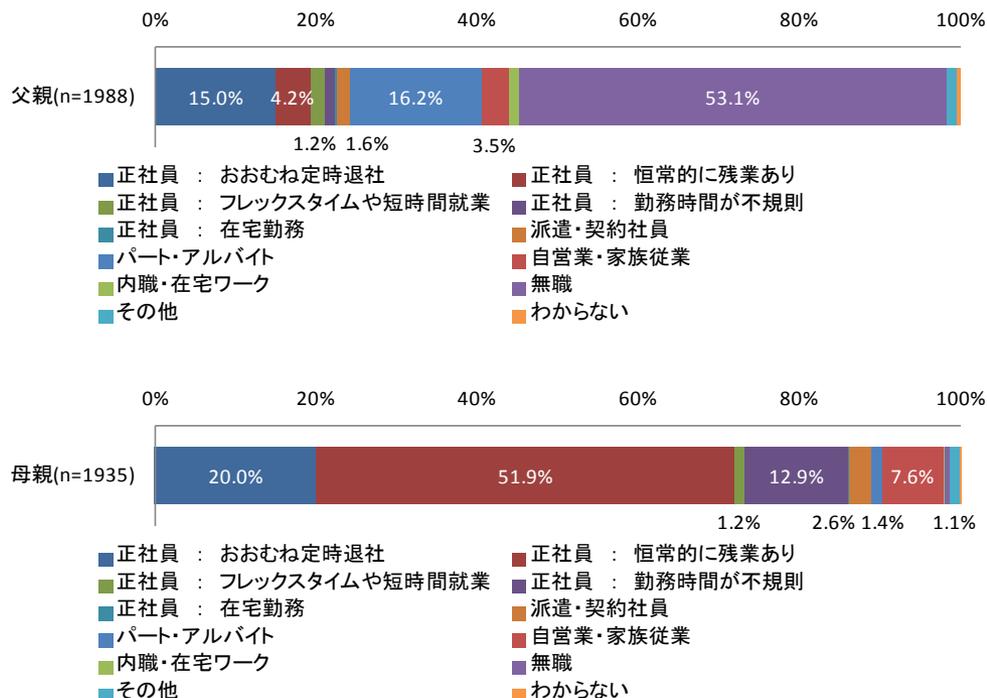


②回答者の配偶者・パートナー

父親の配偶者・パートナーの就業形態は「無職」が最も多く、53.1%であり、次いで「パート・アルバイト」が16.2%である。母親の配偶者・パートナーの就業形態は「正社員：恒常的に残業あり」が最も多く、51.9%であり、次いで「正社員：おおむね定時退社」が20.0%である。

図表36 配偶者・パートナーの就業形態：単数回答

今回調査(2014年)



	合計	正社員					派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業・家族従業	内職・在宅ワーク	無職	その他	わからない
		おおむね定時退社	恒常的に残業あり	フレックスタイムや短時間就業	勤務時間が不規則	在宅勤務							
父親	1988	299	83	40	23	5	31	323	69	24	1056	25	10
	100.0%	15.0%	4.2%	2.0%	1.2%	0.3%	1.6%	16.2%	3.5%	1.2%	53.1%	1.3%	0.5%
母親	1935	387	1005	24	249	4	51	27	148	3	13	21	3
	100.0%	20.0%	51.9%	1.2%	12.9%	0.2%	2.6%	1.4%	7.6%	0.2%	0.7%	1.1%	0.2%

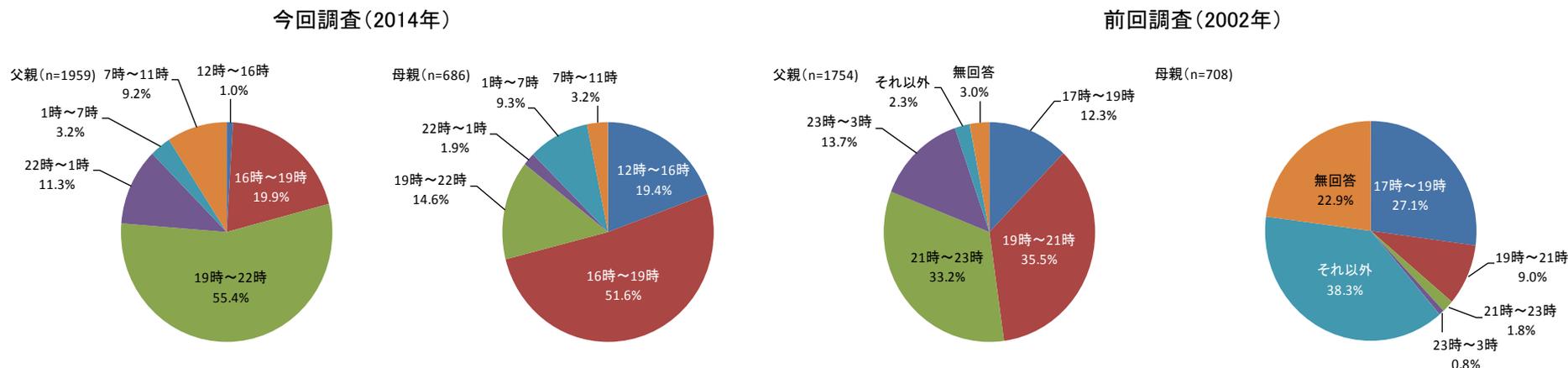
(2)通常働いている日に帰宅する時間

①回答者

父親の通常働いている日の平均帰宅時間は18.1時、母親の平均帰宅時間は15.6時であった。回答分布では、父親が通常働いている日に帰宅する時間で最も多いのは、「19時以降21時未満」で55.4%、次いで「16時以降19時未満」で19.9%、一方、母親で最も多いものは「16時以降19時未満」で51.6%、次いで「12時以降16時未満」で19.4%であった。

前回調査では、父親の平均帰宅時間は20.0時、母親の平均帰宅時間は16.1時であった。回答分布では、前回調査では「無回答」の割合が一定あるため、割合の比較は困難だが、父親はで最も多かった回答は「19時以降21時未満」、次に多いのが「21時以降23時未満」であり、母親では「それ以外(3時～17時)」が最も多く、次いで「17時以降19時未満」が多かった。

図表37 通常働いている日に帰宅する時間



②回答者の配偶者・パートナー

配偶者・パートナーについて、通常働いている日に帰宅する時間をみると、父親の配偶者・パートナーでもっとも多いのは、「16時以降19時未満」で52.1%、次いで「19時以降22時未満」で18.0%、一方、母親の配偶者・パートナーでもっとも多いのは「19時以降22時未満」で49.1%、次いで「22時以降1時未満」で20.6%である。

本人と配偶者・パートナーの帰宅時間のうち最も多い組合せは、父親及び配偶者・パートナーで「父親の19時以降22時未満と配偶者・パートナーの16時以降19時未満」で55.4%であった。

母親と配偶者・パートナーの帰宅時間のうちもっとも多い組合せは、「母親の16時以降19時未満×配偶者・パートナーの19時以降22時未満」で55.8%であった。

図表38 通常働いている日に帰宅する時間

今回調査(2014年)

	合計	配偶者・パートナー						
		12時～15時	16時～18時	19時～21時	22時～24時	1時～6時	7時～11時	
全体	873 100.0%	146 16.7%	455 52.1%	157 18.0%	15 1.7%	76 8.7%	24 2.7%	
父親	12時～15時	10 100.0%	3 30.0%	5 50.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%
	16時～18時	205 100.0%	30 14.6%	136 66.3%	29 14.1%	1 0.5%	8 3.9%	1 0.5%
	19時～21時	439 100.0%	85 19.4%	243 55.4%	89 20.3%	5 1.1%	14 3.2%	3 0.7%
	22時～24時	83 100.0%	16 19.3%	39 47.0%	16 19.3%	6 7.2%	2 2.4%	4 4.8%
	1時～6時	33 100.0%	5 15.2%	7 21.2%	0 0.0%	1 3.0%	19 57.6%	1 3.0%
	7時～11時	84 100.0%	7 8.3%	22 26.2%	10 11.9%	0 0.0%	31 36.9%	14 16.7%

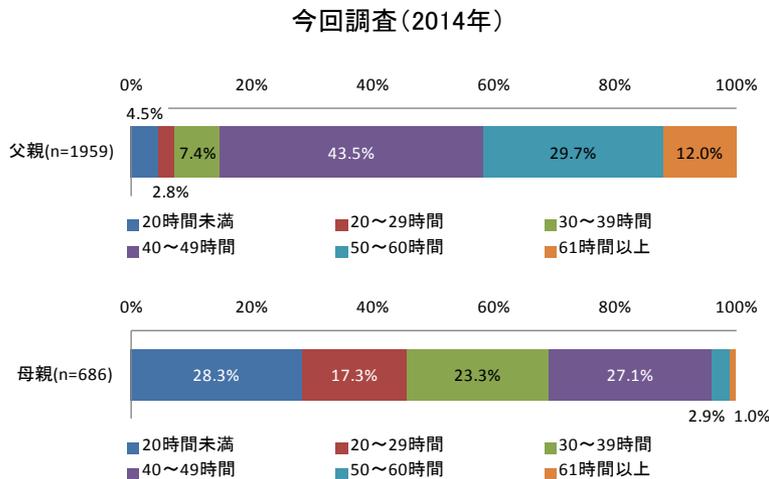
	合計	配偶者・パートナー						
		12時～15時	16時～18時	19時～21時	22時～24時	1時～6時	7時～11時	
全体	1895 100.0%	28 1.5%	264 13.9%	930 49.1%	391 20.6%	92 4.9%	190 10.0%	
母親	12時～15時	125 100.0%	10 8.0%	14 11.2%	73 58.4%	21 16.8%	2 1.6%	5 4.0%
	16時～18時	321 100.0%	2 0.6%	77 24.0%	179 55.8%	51 15.9%	8 2.5%	4 1.2%
	19時～21時	89 100.0%	0 0.0%	5 5.6%	62 69.7%	19 21.3%	1 1.1%	2 2.2%
	22時～24時	10 100.0%	1 10.0%	1 10.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%
	1時～6時	58 100.0%	1 1.7%	2 3.4%	12 20.7%	10 17.2%	15 25.9%	18 31.0%
	7時～11時	19 100.0%	0 0.0%	1 5.3%	5 26.3%	2 10.5%	3 15.8%	8 42.1%

(3) 週当たりの平均労働時間

① 回答者

週当たりの平均労働時間で父親は「40～49時間」と答えた割合が最も高く、母親の週当たりの平均労働時間で最も多いものは「20時間未満」で28.3%である。

図表39 週当たりの平均労働時間：単数回答



② 回答者別の配偶者・パートナー

配偶者・パートナーの週当たりの平均労働時間で父親は「40～49時間」と答えた割合が最も高く、32.0%、一方、母親の配偶者・パートナーの週当たりの平均労働時間でもっとも多いものは「40～49時間未満」と「50～60時間未満」で、ともに33.6%である。本人と配偶者・パートナーの労働時間の組み合わせは、下表のとおりである。

図表40 回答者の週当たりの平均労働時間：単数回答

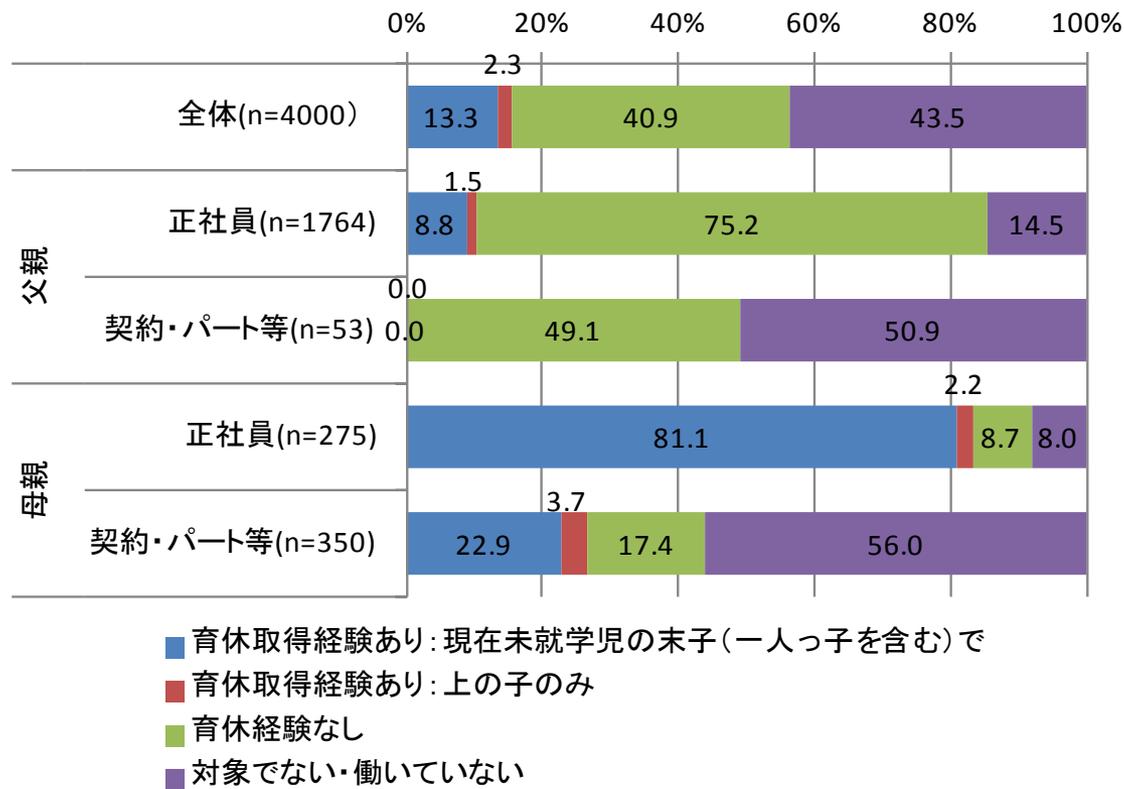
	合計	配偶者・パートナー					
		20時間以下	21～29時間	30～39時間	40～49時間	50～60時間	61時間以上
全体	873	220	117	184	279	58	15
	100.0%	25.2%	13.4%	21.1%	32.0%	6.6%	1.7%
父親	20時間以下	47	30	5	3	6	0
		100.0%	63.8%	10.6%	6.4%	12.8%	0.0%
	21～29時間	25	10	5	3	5	2
		100.0%	40.0%	20.0%	12.0%	20.0%	8.0%
	30～39時間	70	18	11	31	9	1
		100.0%	25.7%	15.7%	44.3%	12.9%	1.4%
	40～49時間	374	71	53	83	149	17
	100.0%	19.0%	14.2%	22.2%	39.8%	4.5%	
50～60時間	237	61	34	49	74	19	
	100.0%	25.7%	14.3%	20.7%	31.2%	8.0%	
60時間以上	101	29	9	12	30	11	
	100.0%	28.7%	8.9%	11.9%	29.7%	10.9%	

	合計	配偶者・パートナー					
		20時間以下	21～29時間	30～39時間	40～49時間	50～60時間	61時間以上
全体	1895	61	26	66	636	636	470
	100.0%	3.2%	1.4%	3.5%	33.6%	33.6%	24.8%
母親	20時間以下	182	15	2	8	64	47
		100.0%	8.2%	1.1%	4.4%	35.2%	25.8%
	21～29時間	106	5	3	7	36	37
		100.0%	4.7%	2.8%	6.6%	34.0%	34.9%
	30～39時間	140	1	0	11	55	46
		100.0%	0.7%	0.0%	7.9%	39.3%	32.9%
	40～49時間	172	2	2	2	74	68
	100.0%	1.2%	1.2%	1.2%	43.0%	39.5%	
50～60時間	18	1	0	0	3	10	
	100.0%	5.6%	0.0%	0.0%	16.7%	55.6%	
60時間以上	4	0	0	0	0	1	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	

(4) 育児休業取得の状況

現在未就学児である末子(一人っ子の場合は長子)で育児休業を取得した割合は、父親の場合、正社員で8.8%、契約・パート等いわゆる非正社員(自営・内職を含まない)で8.8%である。末子で取得した割合には、上の子どもでも取得したことがある人も含まれる。育休取得と答えているが、育児・介護休業法に基づく育休ではないもの(会社独自の制度あるいは有給休暇等)も含めて答えている可能性があると考えられる。母親では、正社員で81.1%、契約・パート等で22.9%である。父母ともに、契約・パート等では「対象でない・働いていない」が5割強を占めるが、中には、自身が対象であるもののそのことを知らない人が含まれる可能性がある。

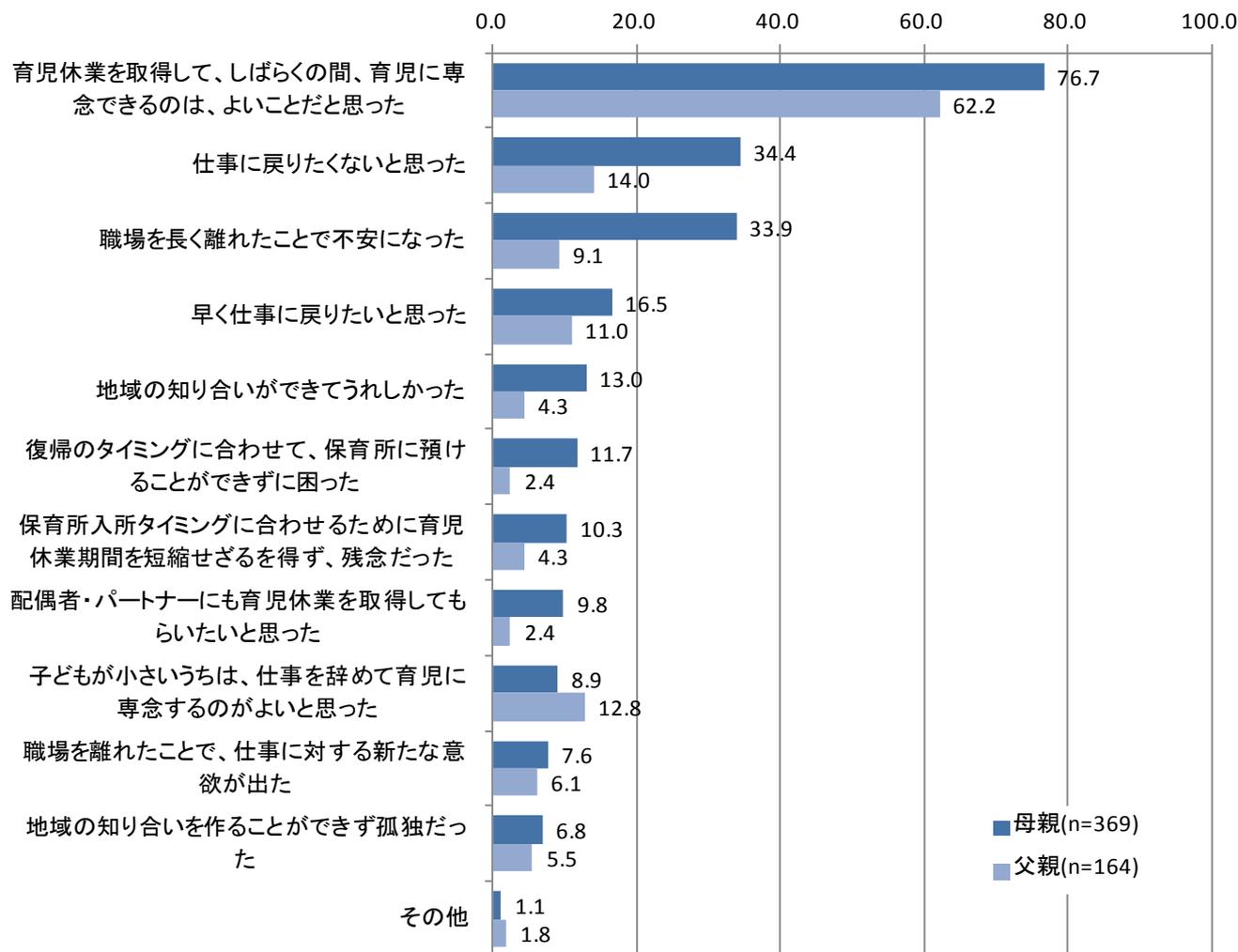
図表41 就業形態別育児休業取得状況:単数回答



(4)育児休業を取得した感想

育休を取得した人の感想としては、父母ともに「しばらくの間、育児に専念できるのはよいことだ」がもっとも多いが、長期間休業をする母親では「仕事に戻りたくないと思った」、「職場を長く離れたことで不安になった」がいずれも3割を超える。復帰のタイミングで保育所に預けられなかった、保育所のタイミングに合わせるため休業期間を短縮した母親がいずれも1割強いる。

図表42 育児休業を取得した感想：複数回答

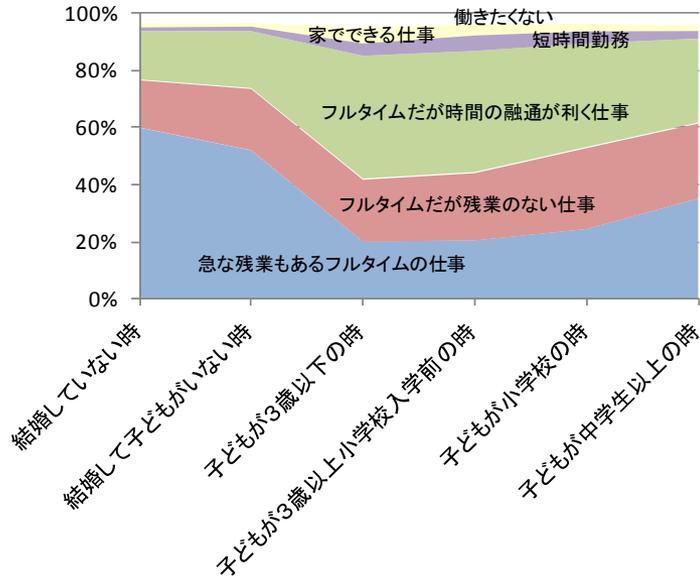


(4)理想の働き方

結婚していない時の理想の働き方について最も多いのは、父親、母親ともに「急な残業もあるフルタイムの仕事」で、それぞれ、60.3%、66.4%だが、父親、母親ともに、「結婚して子どもがいない時」、「子どもが3歳以下の時」になると、「急な残業もあるフルタイムの仕事」は減少し、父親では「フルタイムだが時間の融通が利く仕事」が増加する。母親では、一次的に「働きたくない」の割合が増えるが、子の年齢とともに減少し、「短時間勤務」、「フルタイムだが時間の融通が利く仕事」などの割合が高くなっている。

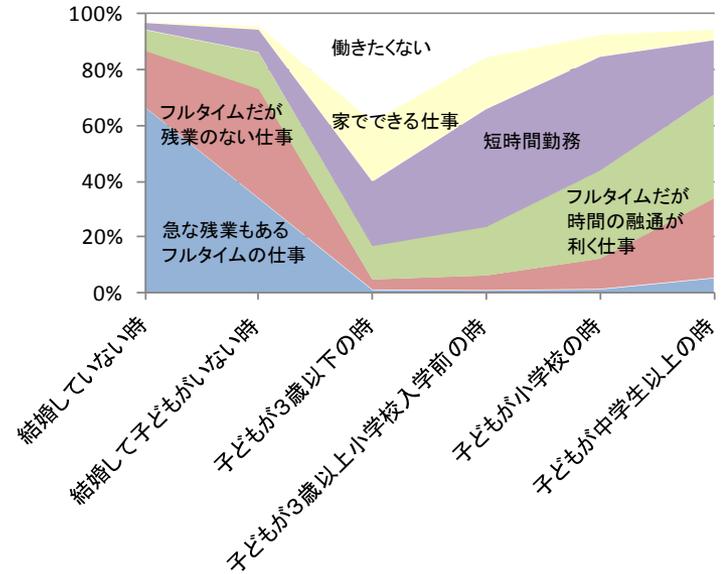
図表43 理想の働き方:単数回答

父親 (n=2000)



母親 (n=2000)

今回調査 (2014年)



	結婚して いない時	結婚して子 どもがいない 時	子どもが3歳 以下の時	子どもが4歳 以上小学校 入学前の時	子どもが小 学生の時	子どもが中 学生以上の 時
父親	働きたくない	73 3.6%	64 3.2%	99 4.9%	74 3.7%	80 4.0%
	家でできる仕事	25 1.3%	28 1.4%	109 5.4%	78 3.9%	55 2.7%
	短時間勤務	30 1.5%	35 1.8%	95 4.7%	114 5.7%	89 4.5%
	フルタイムだが時間の融通が利く仕事	337 16.9%	399 19.9%	860 43.0%	848 42.4%	727 36.3%
	フルタイムだが残業のない仕事	330 16.5%	428 21.4%	432 21.6%	471 23.5%	566 28.3%
	急な残業もあるフルタイムの仕事	1205 60.3%	1046 52.3%	405 20.3%	415 20.7%	493 24.7%

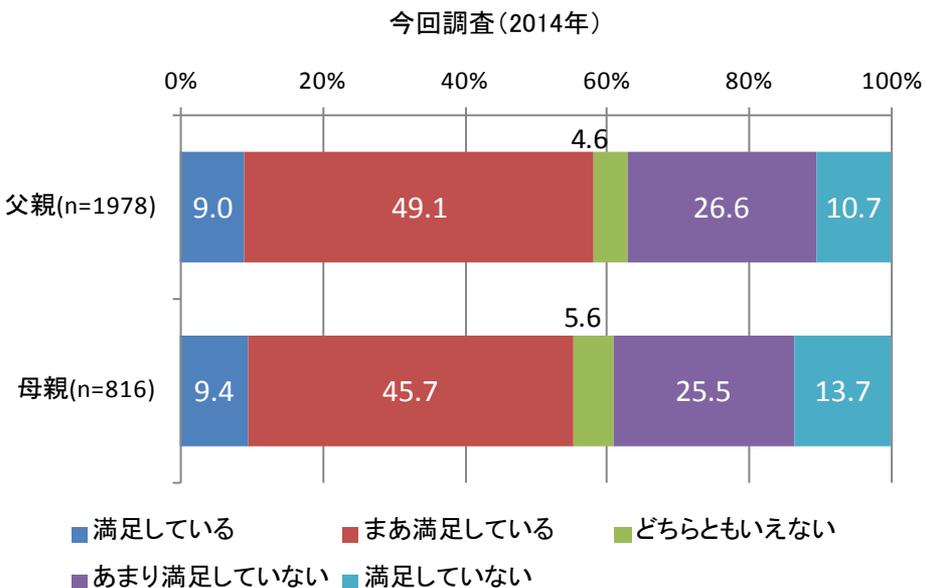
	結婚して いない時	結婚して子 どもがいない 時	子どもが3歳 以下の時	子どもが4歳 以上小学校 入学前の時	子どもが小 学生の時	子どもが中 学生以上の 時
母親	働きたくない	56 2.8%	85 4.3%	774 38.7%	312 15.6%	151 7.5%
	家でできる仕事	7 0.4%	25 1.3%	424 21.2%	368 18.4%	156 7.8%
	短時間勤務	45 2.3%	160 8.0%	461 23.0%	841 42.1%	812 40.6%
	フルタイムだが時間の融通が利く仕事	151 7.5%	265 13.2%	245 12.3%	354 17.7%	636 31.8%
	フルタイムだが残業のない仕事	412 20.6%	787 39.4%	72 3.6%	104 5.2%	217 10.8%
	急な残業もあるフルタイムの仕事	1329 66.4%	678 33.9%	24 1.2%	21 1.0%	28 1.4%

(5)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の満足度

①満足度

自身のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の満足度について、満足している(「満足している」と「まあ満足している」を合わせた)割合は、父親で58.1%、母親で55.1%である。

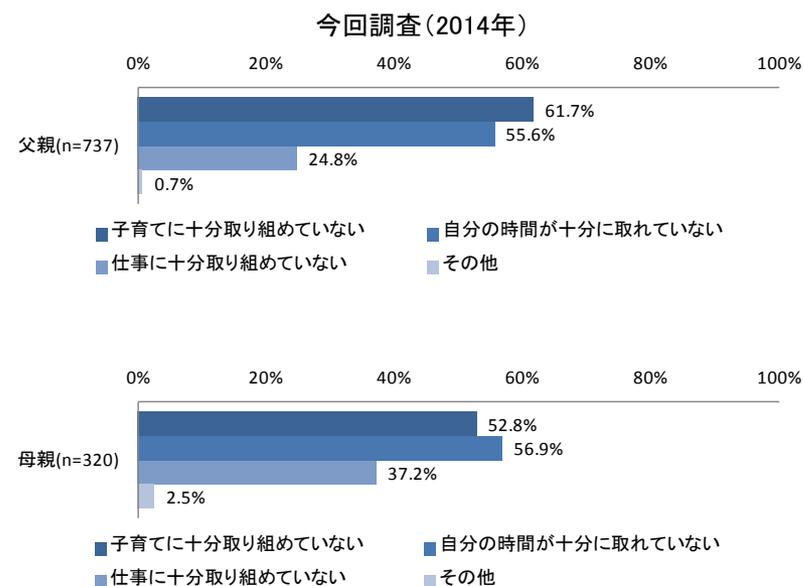
図表44 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の満足度
:単数回答



②満足していない理由

ワーク・ライフ・バランスに満足していない理由について、父親で最も多いのは「子育てに十分取り組めていない」が61.7%、次いで、「自分の時間が十分に取れていない」が55.6%である。一方、母親で最も多いのは「自分の時間が十分に取れていない」が56.9%、次いで、「子育てに十分取り組めていない」が52.8%である。

図表45 ワーク・ライフ・バランスに満足していない理由:複数回答

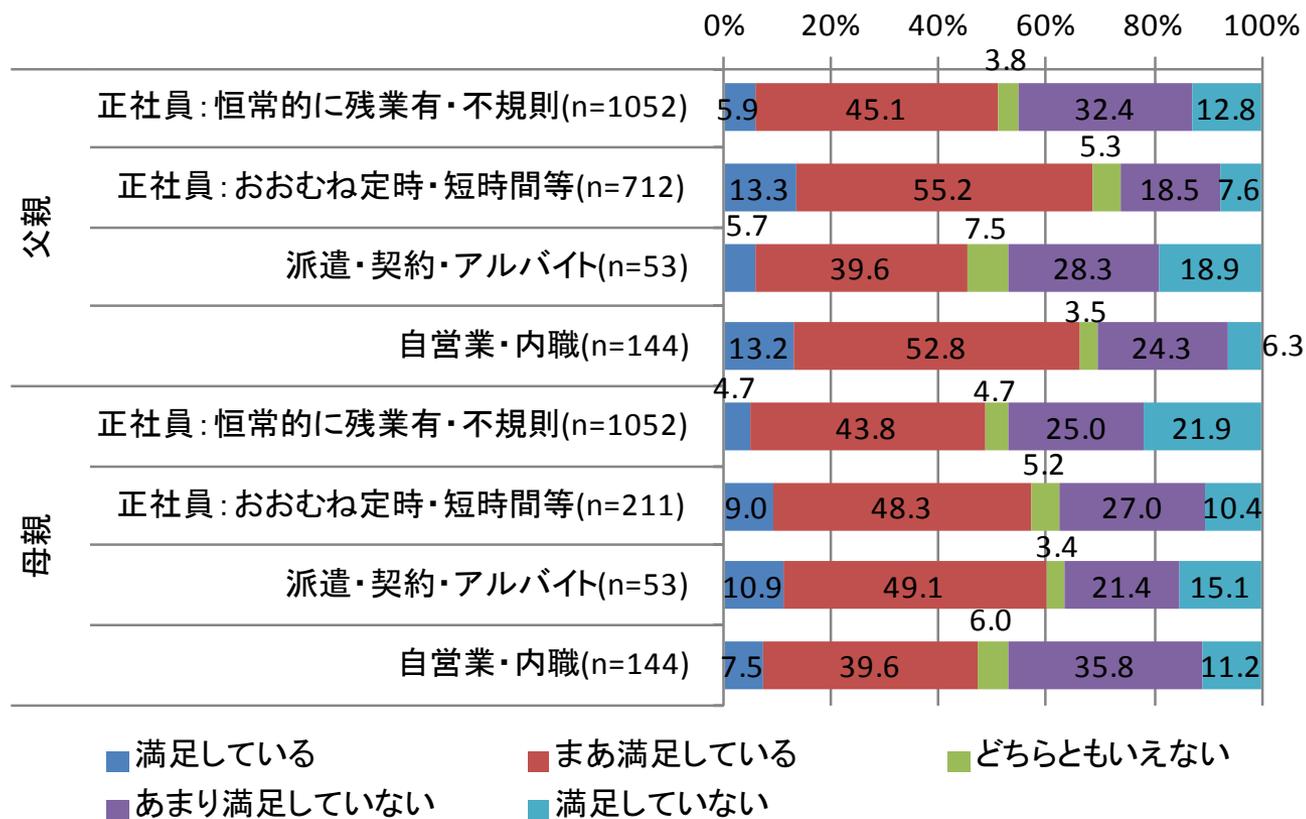


(4) 就業形態とWLB満足

就業形態別にWLB満足度をみると、父母ともに、同じ正社員でも「恒常的に残業有りあるいは不規則」であると、「おおむね定時退社・短時間・フレックス・在宅勤務等」よりもWLB満足度が低い。また、父親では「派遣・契約・アルバイト」が、母親では「自営業・内職」が、WLB満足度が低くなっている。

今回調査(2014年)

図表46 就業形態別WLB満足度:単数回答



5.基本属性

(1)年齢

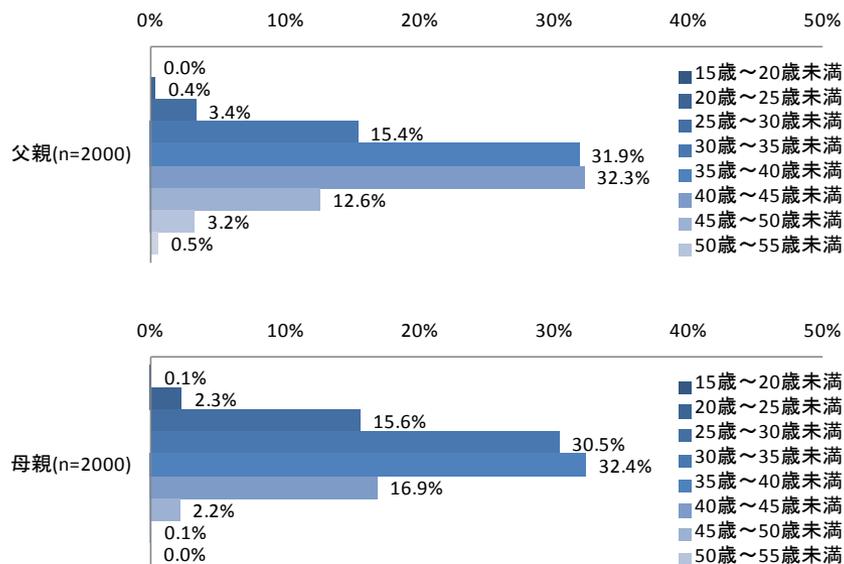
父親の平均は39.4歳、母親の平均は34.6歳であった。父親の年齢で最も多い回答は、「40歳～45歳未満」で32.3%、次いで「35歳～40歳未満」で31.9%、一方、母親の年齢で最も多い回答は「35歳～40歳未満」で32.4%、次いで「30歳～35歳未満」で30.5%である。

前回調査では、父親の平均年齢は37.3歳、母親の平均年齢は34.9歳であった。父親の年齢で最も多い回答は、「40歳以上」で31.6%、母親の年齢で最も多い回答は「36歳以上40歳未満」で31.7%であった。

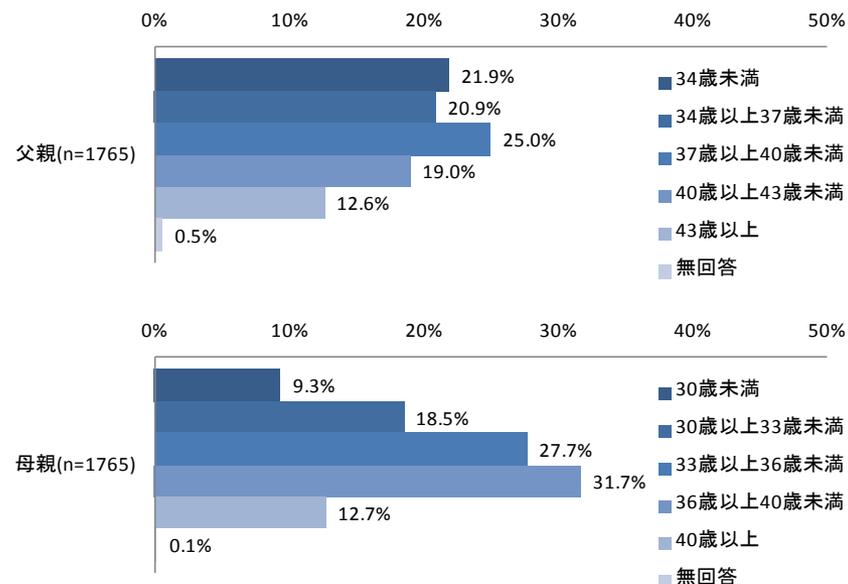
本調査の父親及び母親の年齢構成は前回調査とほぼ変わらない状況である。

図表47 年齢：単数回答

今回調査(2014年)



前回調査(2002年)



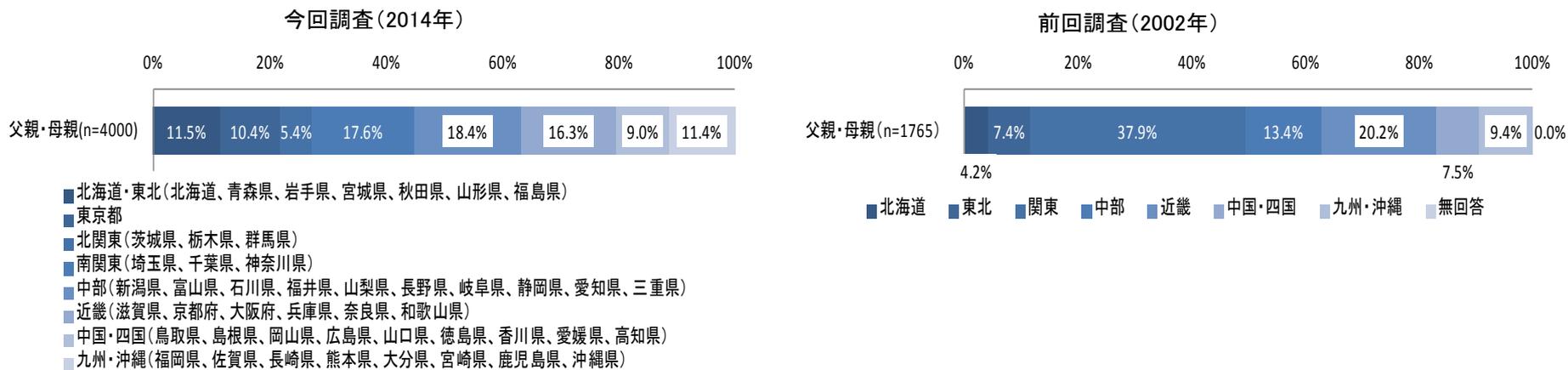
(2)居住地

居住地は、父親、母親ともに「関東」(33.4%)、「近畿」(18.4%)、「中部」(16.3%)の3地域で約70%であった。

前回調査でも、同様に、「関東」(37.9%)、「近畿」(20.2%)、「中部」(13.4%)の3地域で約70%であった。

本調査の父親及び母親の居住地の構成は前回調査とほぼ変わらない状況である。

図表48 居住地:単数回答



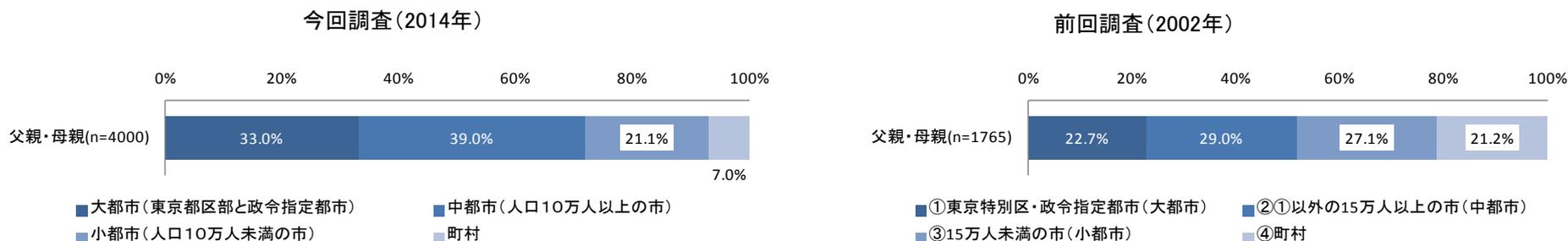
(3) 居住市区町村の規模

居住している市区町村の規模は、父親、母親ともに「中都市(人口10万人以上の市)」の割合が最も多く、39.0%、次いで「大都市(東京都区部と政令指定都市)」が33.0%、「小都市(人口10万人未満の市)」が21.1%、「町村」が7.0%であった。

前回調査では、「東京特別区・政令指定都市(大都市)以外の15万人以上の都市(中都市)」が29.0%、「15万人未満の市(小都市)」が27.1%、「東京特別区・政令指定都市(大都市)」が22.7%、「町村」が21.2%であった。

本調査では、前回調査よりも、「町村」の割合が低く、「中都市(人口10万人以上の市)」の割合が高くなっている。

図表49 居住市区町村の規模：単数回答

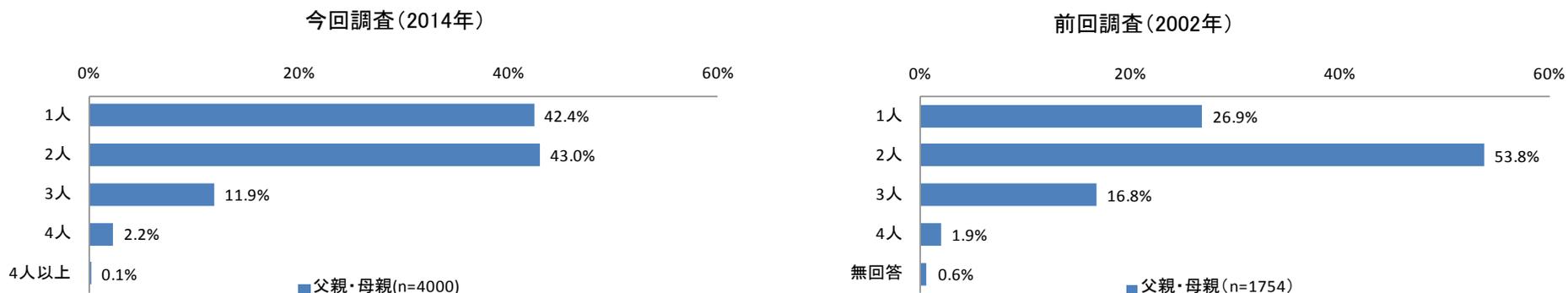


(4)子どもの人数

父親が回答した子どもの平均人数は1.8人、母親が回答した子どもの平均人数は1.7人であった。回答分布では、「2人」と答えた割合が最も多く、43.0%である。次いで、「1人」と答えた割合が42.4%である。

前回調査では、全体の平均人数は1.9人であり、回答分布では、「2人」が53.8%で最も多かった。本調査の子ども的人数は前回調査とほぼ変わらない状況である。

図表50 子どもの人数:単数回答



**子育て支援策等に関する調査2014 報告書
(未就学の父母アンケート調査) 概要**

**三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2オランダヒルズ森タワー
女性活躍推進・ダイバーシティマネジメント戦略室
経済・社会政策部
矢島、鈴木、川澤、尾島**